

語彙編

## 目次

<b>1</b>	<b>英語≠カタカナ英語</b> .....	<b>1</b>
1.1	building ≠ ビル .....	1
1.2	boat ≠ ボート .....	1
1.3	body ≠ ボディ .....	1
1.4	firestorm ≠ ファイアストーム .....	2
1.5	global ≠ グローバル .....	3
1.6	pocket ≠ ポケット .....	3
1.7	rush hour ≠ ラッシュアワー .....	3
1.8	service ≠ サービス .....	4
<b>2</b>	<b>Tsumami</b> .....	<b>6</b>
<b>3</b>	<b>実例に基づく onomatopoeia (擬音語・擬声語・擬態語) 寸見</b> .....	<b>12</b>
3.1	bang = ドスン[ドカン・バン・バタン・ガシャン]という音/clap = バリバリ、バーン、ピシャリ という破裂音やそのような音/clatter = ペチャペチャ喋る声 .....	12
3.2	bark = 犬がほえる/howl = 遠吠えする/whine = クンクン泣く/yo, o, o = 金切り声で 泣く	13
3.3	blab = ペラペラ喋る .....	13
3.4	blur = 口をすべらせる .....	13
3.5	bob = 軽く会釈をする .....	13
3.6	boo = 軽蔑の声、不満の声、ワァワァ泣く .....	13
3.7	bow-wow = 犬の吠え声、夫婦喧嘩の声/mew = 猫の鳴き声/wow = 擬声語 .....	14
3.8	brrrr = 寒くて震える/burrarrrrrrrrr = 太鼓の音/brurrarrrrrrrrr = 改造高速自動車の 音/brrrm = スポーツカーの音 .....	15
3.9	bump = バタンとぶつかる、偶然ばたりと出会う、振動 .....	15
3.10	burp = ゲップする .....	16
3.11	bustle = ごったがえす .....	16
3.12	buzz = ハエがブンブン飛ぶ .....	16
3.13	cackle = げらげら笑う、甲高い笑い声 .....	16
3.14	caw = カラスの鳴き声 .....	17
3.15	chatter = ペチャペチャ喋る、歯ががたがた震える .....	17
3.16	chirp = 甲高い声でちいっちいっと鳴く/trill = 鳥のさえずり/warble = 鳥のさえずり	17
3.17	chuckle = くすくす笑う オス鳥がコッコツと鳴く/giggle = 神経質そうにまた、または恥 ずかしそうに くすくす笑う .....	17
3.18	chug-chugging = ボツンボツン音を立てる .....	18
3.19	clatter = ガチャガチャ、ボコボコ音を立てる .....	18

3.20	click = ガチッと言う音(を立てる)／舌打ちをする、大当たり、カチリ(突然原因がわかる)／creak = キーキー鳴る／changing = ガン、ガン、カランとなる.....	18
3.21	clink = チャリン、カチン]と鳴る[鳴らす](音)馬の蹄の音 .....	19
3.22	clip = バチット切れ取る／clip-clop = カランコロンと音を立てる .....	20
3.23	coo = 鳩がクウクウと鳴く、クウクウとってお別れの挨拶をする .....	20
3.24	doodle-doo = コケッココー、普通は cock-a-doodle-doo = 鶏雄鳴き声 .....	21
3.25	crack = ビシッ、バーンなどの鋭い音、花火の音 .....	21
3.26	crackle = パチパチ、バリバリという音 .....	21
3.27	crash = ガラガラ、ドシン、ガチャン、ものがくずれたり衝突する時などのすさまじい音 ...	22
3.28	creak = 耳障りなキイキイ軋む音／groan = 物がギーギー軋む音、うめき声／clang = ガランガランという音／trip trap = キーギーという音 .....	22
3.29	croak = ガーガー声で鳴く.....	23
3.30	crow = 泣きたてる.....	23
3.31	dilly-dally = ぐづぐづしている.....	23
3.32	dit-dit-dit, dah-dah-dah, dit-dit-dit = 無線電信遭難信号 トントん、ツーツー、トントん ...	23
3.33	Dizzy and Daddy = クルックルパー .....	24
3.34	doodle-doo = 鶏の鳴き声 コケッココー、鶏.....	24
3.35	rip, drip, dip = ボタリ、ボタリ、ボタリ(ものが滴り落ちる音).....	24
3.36	um-rum-rum Dum-rum-rum = 雨がごぼうの葉に当たる音、バタバタ.....	25
3.37	flabbergast = 口も利けないほどびっくり仰天する、面食らう.....	25
3.38	flash = 光がピカリ、パッと光る、きらめき／swish = 力が風を切る、シュー・シューという音／crunch = ガリガリ、ボリボリという音／thud .....	25
3.39	flibbertigibbet = おしゃべりで軽薄な人、落ち着きのない人.....	26
3.40	flick = バチっという音、バチッと電源を入れる(音) .....	26
3.41	flicker = 灯火や光などがちらちら点滅する、火が揺らめく .....	26
3.42	flip = パラパラめくる、バタバタと動かす、ぐいと、ひよいと動かす／flop = どきっと落ちる音、どかんという音、ばたり倒れる音／flip-flop = ばたばた「がたがた」鳴る(音) .....	26
3.43	flutter = 鳥の羽ばたき似た動作をいい、旗がひるがえる、人をうろたえさせる、あわてさせる、うろろさせる.....	27
3.44	gargle = うがい(の音) .....	27
3.45	gibber = 早口でしゃべる、訳のわからないことをしゃべる .....	28
3.46	gibberish = わけのわからないおしゃべり.....	28
3.47	giggle = 既出 3.17 で神経質そうに、恥ずかしそうにくすぐす笑う、キャツキャツと笑う....	28
3.48	glibly = ぺらぺらと 軽薄に.....	29
3.49	glitter = きらびやかさ、はなやかさ.....	29
3.50	goggle = 目をぎよろぎよろさせる、見張りを(風・ちり・光線よけ)、大めがね／stare =	

じろじろ見る .....	29
3.51 gogle, gogle, go = 赤ん坊の片言 .....	30
3.52 goo-zum, goo-gum, goo-o-o-o-o = 赤ん坊の鼻歌 .....	30
3.53 groan = うめく(音)、ギイギイきしる(音) / creak = ギーギー[キーキー]きしる(音) .....	30
3.54 growl = うなり声を立てる、吠えるように言う .....	31
3.55 gulp = がぶりと飲む、ぐいと飲む、ひと飲み .....	31
3.56 gurgle = 音を立てて流れる(音) .....	31
3.57 gush = 液体や水が大量に噴出する、とくとくと喋る .....	31
3.58 harum-scarum = そそっかしい、無鉄砲な、いい加減な .....	31
3.59 helter-skelter = でたらめの、行き当たりぱつりの .....	32
3.60 higgledy-piggledy = ひどく乱暴な、目茶苦茶な .....	32
3.61 hiss = シュート言う音 .....	32
3.62 ho = (呼びかけや、注意、驚きなどを表す)ホー!、オーイ! .....	32
3.63 howl = 犬、狼などが遠吠えする、風などがヒューヒュー・ゴーゴーとうなる .....	33
3.64 hubbub = わいわい、がやがやという音 .....	33
3.65 hurly burly = 騒動、ごった返し .....	33
3.66 jabbering = ペチャペチャ喋る .....	33
3.67 jingle = ジャラン・ジャランと鳴らす、チリン・チリン鳴る / jangle = ガチャガチャなる .....	33
3.68 jittery = ビクビク状態 .....	34
3.69 jitterbug = 神経質な人、びくびくした .....	34
3.70 joggle = よたよた動く ゆれながら動く .....	34
3.71 jolt = がたがた揺れる .....	34
3.72 jumble = ごちゃまぜ 寄せ集め .....	34
3.73 miaow = 猫の鳴き声、ニヤーンと鳴く .....	34
3.74 moo = 牛の泣き声、牛のモーと鳴く / barbar = 羊の鳴き声、羊がメーィと鳴く / cluck = めんどりが雛を呼んだり卵をカカエテコッコと鳴く「声」 / oink = 豚の鳴き声、ぶうぶう、ぶうぶう いう 35	
3.75 munch = 音を立ててむしゃむしゃ食べる .....	35
3.76 Murmur = 小川のさらさら、ちよろちよろ流れる(音) .....	35
3.77 oops = しまった .....	35
3.78 patter = バタバタと音を立て落ちる音(がする)、足音のバタバタという音、雨がしきりに流 れる音 36	
3.79 peep = ピーピー、チューチュー(ひな鳥・ネズミなどの鳴き声) .....	36
3.80 pell mell = めちゃくちゃに、向こうみずに、ごった返して / hr helter-skelter = 慌てふため いて、狼狽して / slap-dash = 向こうみずに、しゃにむに、むやみに .....	36
<b>4 tournament .....</b>	<b>38</b>

<b>5 「わが国」</b> .....	<b>40</b>
<b>6 homestay</b> .....	<b>41</b>
<b>7 (h)の発音について</b> .....	<b>42</b>
<b>8 Britons</b> .....	<b>44</b>
8.1 ジャーナリズムで使うとしたもの .....	44
8.2 特にジャーナリズムに限定せず詩的古風さがあるとしたもの .....	44
8.3 この語の特殊性に触れていない英米系辞典.....	45
<b>9 op-ed とは何か</b> .....	<b>50</b>
<b>10 男性と beautiful : 女性と handsome</b> .....	<b>52</b>
10.1 男性と beautiful.....	52
10.2 女性と handsome.....	52
<b>11 G' an ill person, etc...</b> .....	<b>58</b>
11.1 ill=形容詞の場合 .....	58
11.2 ill が名詞として「災難、不幸、病気」などを表わすとき.....	59
<b>12 「真善美・真美善」⇔「偽悪醜」 雑感</b> .....	<b>61</b>
<b>13 国際結婚</b> .....	<b>63</b>
<b>14 風流な！と？</b> .....	<b>65</b>
14.1 疑問文と！.....	65
14.2 省略された！.....	65
14.3 ...—...—...—...—！.....	65
14.4 同一句、同一句、同一句! 同一句!.....	65
14.5 !!.....	66
14.6 !!! .....	66
14.7 !...!...!! .....	66
14.8 !...!...!!! .....	66
14.9 !...!!...!!! .....	67

# 1 英語 ≠ カタカナ英語

和製英語ならずとも私たちが日常使っている日本語の中には英語からの借用語が多く見かけられますが、ここではあまり取り上げられないでいるものの幾つかを並べてみました。

## 1.1 building ≠ ビル

- 1) A hothouse is a **building** covered with plastic or glass in which vegetables or flowers are grown... **The underground hothouse** is 1 meter wide and 6 meters long.

——VOA (*Voice of America*)

(温室は野菜または花が栽培されているプラスチックまたはガラスで覆われた建物である。地下に置かれているその建物は幅が 1 メートル、長さが 6 メートルある)とあります。ビルディングを『国語辞典』でひくと「ビル、高層建築」「鉄筋コンクリートなどでつくった高層建築物」とあり、日本語では地上の高層建築を連想しますが、地下にあるビニールハウスの温室のイメージはありません。

## 1.2 boat ≠ ボート

- 2) **the torpedo patrol boat PT-109.** ——*International Herald Tribune*

第 35 代アメリカ大統領 John F. Kennedy が第 2 次世界大戦中乗船し海軍の軍功で勲章を授けた哨戒用魚雷艇 109 号のことを述べています。

- 3) **The boat** sleeps four, has a deck and kitchen. ——E. Hemingway

(その船には 4 人泊まり、大きな甲板と台所がある)

『国語辞典』にボートは「オールで水を掻いて進むかたちの西洋風の小舟。他の語に付いて、船の意をあらわす。「モーターボート」「キャッチャーボート」「フェリーボート」など。(オールで漕ぐ) 洋風の小船、短艇、端艇。とありますがこのような哨戒用魚雷などの巨艦や、大きな甲板があり台所まで設置されているイメージはありません。

ボート{漕ぎ舟}はアメリカで rowboat イギリスで rowing boat といいます。

## 1.3 body ≠ ボディ

- 4) **The body of** water bathing the coast of Persia became Persian Gulf. ——I. Asimov

(ペルシャの海岸を洗っている水のかたまり(=海) がペルシャ湾となった)

- 5) We have to organize our values into a **body of** principles claiming objective validity — a universalistic ideology. ——G. Clark

(われわれの価値観を体系化して客観的に有効で普遍的イデオロギーを要する一連の原則にしないといけない)

- 6) He led a **small body of** cavalry down a slope. ——D. Keene

(彼は騎兵の**小隊**を率いて坂を下りた)

- 7) As the technology becomes increasingly complex, **a public body** will be required to act as a monitor.

(科学技術が複雑になるにつれ、**公的機関**が監視役として勤めを果たすことが要求されるだろう。)

- 8) A growing **body** of evidence suggests that happy people may live longer than others.

——J. R. Brown

(幸な人はそうでない人よりも長生きする**数多くの**証拠がある)

- 9) English has developed by far **the largest body of** vocabulary that has ever grown in any language.

——C. Loird

(英語はどの言語よりも**はるかに多くの**語彙を発達させた)

- 10) Those who claim that English is a sexist language have produced **a considerable body of** evidence.

——R. Wardhaugh

(英語は性差別語だと主張する人は**かなりの量の**証拠を提示している)

- 11) English is an amalgam of several languages, and it is this amalgam that has made it the rich and poetic language it is and so enabled our race to produce **the greatest body of** great poetry that the modern world has seen.

——W. S. Maugham

(英語は数ヶ国語の混合後である。英語が、今日の豊かで誌的な言語となり、われわれ英国人が現代世界がかつて見なかったほどの**多量の**詩を作ることができたのはこの混合のおかげである)

ボディは『国語辞典』には「身体、胴体、車体、機体、ボクシングでの腹部をいう」などと記されていますが「ひと塊のもの、集まり、団体、数量」も表すことの言及はありません。しかし body の語源は、**酒をいれる樽**「=cask」を意味したことを思えばその理由が想像できます。

#### 1.4 firestorm ≠ ファイアストーム

- 12) American bombers under General Curtis Le-May dropped nearly two thousand tons of napalm bombs on Tokyo, creating **a firestorm** that lasted for days.

——Tad Fuleja

(カーテス・ラメイ将軍指揮のアメリカ爆撃機が東京に 2 万トン近くのナパーム爆弾を投下し、二日間燃え続けた**火事**あらしをまきおこした)

ファイアストームは高校や大学の運動会やクラブ活動でよく行われています。『国語辞典』で確かめてみますと「夜、大勢でたき火を囲んで歌ったり踊ったりしてさわぎ楽しむこと。(大火・爆発に伴う強風の意) 焚火(タキビ)の回りで、歌ったり踊ったりして騒ぐこと」などと出ています。これは英語で使われる意味とはだいぶ違います。英語では「(怒り・抗議)大旋風、火事あらし」を意味します。ファイアストームは英語では **bon-fire** といいます。

- 13) After going home to dinner and resting a little from the activities of the day we attended a big evening **bonfire**. At camp we always sang songs, played games, and toasted marsh-mallows around a big **bonfire**. —T. Olsen  
(夕食をとるのに家に帰り一日の活動を終えて少し休んでから夜の大きなキャンプファイアーに参加した。キャンプ場で私たちはいつもファイアストームをして大きな火の周りで歌を歌いゲームをしでマシュマロを焼いた)

### 1.5 global ≠ グローバル

- 14) **Global aphasia** refers to the severe impairment of all language-related function. —S. P. Springer  
(**全失語症**とは言語の全機能が深刻な損傷を受けていることをいう)

グローバルを『国語辞典』で引くと「世界的な。地球規模の。世界的な規模であるさま、国境を越え地球全体にかかるさま」などとでていますが、ここでは全地球どころか砂浜の砂とも比較できない小さな人間の頭部領域のことを意味しています。

### 1.6 pocket ≠ ポケット

- 15) Britain was still divided by class, and contained **pockets** of terrible poverty. Gradually I began to enjoy Tokyo—for the theatres, the museums, the pockets of old Tokyo. —Donald Keene  
(イギリスはまだ階級社会であり、厳しい貧困**地域**も存在していた。じょじょに、劇場、博物館、東京の古い**地域**のある東京が好きになりはじめた)
- 16) The English say either peep or squint; peck exists only in **three pockets** of East Anglia. —Bill Bryson  
(イギリス人はピープ(=のぞき見する)、スクイント(=目を細めて見る)と言うが、ペック(=<鳥が><食物を>つえばむ)はイングランド東部の3つの**地域**でしか通用しない)
- 17) They do not live in one another's **pockets** as French authors do. —S. Maugham  
(彼らはフランスの作家たちが過ごすような**共同地域**で生活することはない(=共同生活をしない))

『国語辞典』にはポケットは「洋服につけた小さな物入れの袋。かくし。衣囊。」などと出ていますが**せまい地域**をも表す英語とはかなりかけ離れています。

### 1.7 rush hour ≠ ラッシュアワー

- 18) He got a job working for a good dry goods store. And he wasn't allowed to sell goods at all



except during **the rush hour** at noon, ...

——Dale Carnegie

(彼は上質の小間物類を売る店の仕事に就いた。そして正午のラッシュアワー以外は品物を販売することを許されなかった)

- 19) By London standards one would say that every hour here is **a rush hour**. As for the periods between 8 and 9 in the morning, between 4.30 and 6 in the evening, they might more aptly be turned the “**crush hour**”. At these times the trains are so packed with people that it is quite impossible to move, save with the swaying crowd. ——P. Milward

(ロンドンの標準感覚をあてはめればこの町(東京)はいつもラッシュアワーと言える。朝の8時と9時の間、夕方の4時半と6時の間の時間帯は**クラッシュ・アワー**(=すさまじい押しつぶす時間)に変わるといったほうがふさわしいかもしれない。この時間帯では電車は大変込み押し合う群集の流れにのる以外身動きは全くできない)英語にも **rush hour** という表現がありますがそれでは食い足らず造語の **crush hour** としたのは苦心作といえます。

『国語辞典』を見ますとラッシュアワーは「通学、通勤者は一時に乗り合わせるために交通機関が混雑する時間」とありますが上例のように正午の時間や普通の時間帯にも言えることを指摘してはいません。

上例はいずれも例外的事情で用いたラッシュアワーです。

下の文は **rush hour** という語の起源を暗示しています。

- 20) **Even busy commuters rushing to work in the morning** take the trouble to check on the daily progress of the trees lining the embankment near Yotsuya station. ——W. Currie  
(朝勤務先に急ぐ通勤者すら四谷駅の近くの堤防に並んでいる木々の日々の成長を気にして観察している)

### 1.8 service ≠ サービス

- 21) What does your service do for children? Where does the money come for your **service**? ——Stella Yamazaki  
(あなた方は子供のためにどんな業務をなさるのですか。業務のためのお金はどこからいただくのですか)
- 22) The Shinkansen “bullet train” was put into **service** just nine days before the start of the Olympics. ——M. Jewel  
(新幹線「弾丸列車」はオリンピックが開催される9日前に「業務におかれた」→開通した)
- 23) Outside his school he did a great deal of useful public **service**. ——J. B. Priestley  
(学校外で彼はかず多くの公益事業をした)
- 24) Many joined the fire **service** to fight fires caused by bombs. ——E. Curry  
(爆弾によって起こった火災と戦う消火作業をする人々が沢山いた)
- 25) It was a total collapse of government **service**. ——(The Guardian)

(そのことで政府の**機能**が完全に停止した)

- 26) We have church **service** every Sunday in our chapel. —S.Yamazaki  
(私たちは日曜ごとに教会で**礼拝**をします)
- 27) The leaders of the armed **services** realized that women could make a big contribution to their organization. —E.Curry  
(**軍**の指揮官は女性が組織に大いに役立つことを知った)
- 28) Auxiliary Territorial Services for the Army, the Women's Royal Naval **Services** and the Women's Auxiliary air Forces supported the flying services. —*Ibid.*  
(国防補助隊、海軍女性**部隊**と空軍女性補助部隊が空軍を援助した)
- 29) **Compulsory service** in for the women was introduced for the first time. —*Ibid.*  
(女性の**兵役義務**がはじめて実施された)
- 30) Women only supplied support **services** and were not allowed to use the weapons themselves. —*Ibid.*  
(女性は予備隊員として**勤務**めるだけで武器の使用は許されなかった)
- 31) Single women under twenty-four joined the Civil Defence service at home. —*Ibid.*  
(24 才以下の独身女性は民間防衛**軍**にくわった)

『国語辞典』にサービスは「奉仕、接待、個人的に、他の人のためにいろいろと尽くすこと」などとあります。

## 2 Tsunami

中越、能登沖、中越沖地震とたて続けに大地震が起きましたが、3年前のスマトラ島北部沖で起こった地震が引き起こした津波は史上最大の災害をもたらし、世界中の話題になりました。津波は英語でも **tsunami** という日本語が使われています。

英語では津波を **tidal wave** といいますますが **tsunami** という日本語が初めて英語に見られたのは後で実例を記しますが 1897年 で、紹介者は米国から日本に帰化し数多くの著述により日本を海外に紹介したラフカディオ・ハーン(日本名は小泉八雲)のようです。

アメリカの週刊誌 **TIME** December 26, 2004 は **Special Report** として **A region in Shock TSUNAMI** のタイトルで下記の出だしで報道しました。

- 1) On the morning of Dec.26, an earthquake of Sumatra was followed by a massive **tsunami**: Asia's suffering touched the world...

(12月26日の午前スマトラ島の地震に続いて大きな津波が起こった)

別項でアジア以外で起こりうる **tsunami** について次のように述べています。

### Could It Happen Elsewhere?

The worst European **tsunami** in recorded history occurred in 1755 when an earthquake off Portugal's coast sent gigantic waves crashing into Lisbon. Together, the quake, the waves and fire took 60,000 lives in the city at a time when it was the capital of an empire. Similar death tolls were recorded in towns along Italy's Strait of Messina in the wake of the **tsunami** of 1908.

(津波は他の地域で起こりうるか)

(歴史に記録されているヨーロッパ最悪の津波は 1775 に起こり、ポルトガル海岸沖で起こった地震のため巨大な波がリスボンを襲った。地震、波、火災が帝国の首都で一度に 6 万人の人命を奪った。類似の死亡者数が 1908 年のツナミでイタリアのメシナ海峡の町で記録された)

**tsunami** という言葉を記載した英米の辞典を調べました

イギリス系

[A] なし

- *The Concise Oxford Dictionary (4), 1951*
- *The Oxford English Dictionary •Supplement (1), 1961*
- *Oxford Illustrated Dictionary, 1962*
- *Pocket Oxford Dictionary (7), 1984*
- *BBC English Dictionary (1), 1992*
- *Collins Concise English Dictionary(3), 1992*
- *Cambridge International Dictionary of English, 1995*
- *Harrap's Essential English Dictionary, 1995*
- *Oxford Advanced Learner's Dictionary (5), 1995*

[B] あり

- *A Supplement to the Oxford English Dictionary (1), 1986*
  - *The Oxford English Dictionary (2), 1992*
    - a brief series of long, high undulations on the surface of the sea caused by an earthquake a similar underwater disturbance. The travel at great speed and often with sufficient force to inundate the land; freq, misnamed a tidal wave
  - 1897 L. Hearn, *Gleanings in Buddha Fields 1 4*
    - ‘**Tsunami** !’ shrieked the people; and then all shrieks and all sounds and all power to hear sounds were annihilated by a nameless shock.. as the colossal swell smote the shore with a weight that sent a shudder through the hills
- 他に 1904, 1956, 1967, 1970, 1972, 1981, 1984 年の実例が記載されています。
- *The Concise Oxford Dictionary (5), 1964*
    - sea wave caused by disturbance of ocean floor or seismic movement [Jap.]

- *Hamlyn Encyclopedic World Dictionary, 1971*
  - a large, often destructive sea wave caused by an underwater earthquake.
- *The Concise Oxford Dictionary (6), 1976*
- *The Concise Oxford Dictionary (7), 1982*
  - series of long, high sea waves caused by disturbance of ocean floor or seismic movement
- *The Concise Oxford Dictionary (8), 1990*
  - a long high sea wave caused by underwater earthquakes or other disturbances
- *The Concise Oxford Dictionary (9), 1995*
  - a long high sea wave caused by underwater earthquakes or other disturbances Also called tidal wave.[Japanese, from *tsu* ‘harbour’ + *nami* ‘wave’]
- *The Concise Oxford Dictionary (10), 1999*
  - a long high sea wave caused by underwater earthquakes or other disturbance  
—Origin C19: from Japanese, from *tsu* ‘harbour’ + *nami* ‘wave’  
wave. [Japanese, from *tsu* ‘harbour’ + *nami* ‘wave’]
- *Pocket Oxford Dictionary (8), 1992*
  - a long high sea wave caused by underwater earthquake etc. [Japanese]
- *Pocket Oxford Dictionary (9), 2001*
  - a tidal wave caused by an earthquake or other disturbance
- *Oxford Advanced Learner’s Dictionary (6), 2000*
  - an extremely large wave in the sea caused, for example, by an earthquake
- *Longman Dictionary of Contemporary English (4) CD-ROM, 2003*
  - Technical a TIDAL WAVE  
TIDAL WAVE の項に  
[C] 1 a very large ocean wave that flows over the land and destroys things  
2 a very large amount of a particular kind of feeling or activity happening at one time とあり下記の用例が別枠で記載されています。
    - Sentences from books, newspapers, etc.
    - Fear of the electronic **tsunami** is misplaced.
    - In 1896, a **tsunami** on the Sanriku coast left 27, 122 dead.
    - In general, both shock waves from airbursts and **tsunami** waves from ocean impacts may present serious hazards to populated areas.
    - In the 165 years from 1813 to 1978 Hawaii recorded no fewer than ninety-five **tsunamis**.
    - No one knows the height of the **tsunami** caused by this eruption.
    - Once the home of only a few sushi venues, our city now boasts a virtual **tsunami** of these eateries.

- The result may be a wave of call attempts spreading like a **tsunami**, at the speed of light.
- Thousands more were killed by **tsunamis** in 1717 and again in 1854.
- *Longman Advanced American Dictionary, 2000*
  - n. [C] a TIDAL WAVE とありこの項には
    - [C] 1 an extremely large ocean wave that flows over the land and destroys things
    - 2 a very large amount of a particular kind of feeling or activity happening at one time とある
- *Cambridge Advanced Learner's Dictionary, 2003*
  - *Mainly Us* an extremely large wave caused by movement of the earth under the sea, often cause by an EARTHQUAKE (= when the Earth shakes)

#### アメリカ系

#### [A] なし

- *Thorndike •Barnhart Comprehensive Desk Dictionary, 1958*
- *The American College Dictionary, 1961*
- *Webster's New World Dictionary, 1964*

#### [B] あり

- *Webster's New International Dictionary (2), 1958*
  - a seismic disturbance of the ocean, a great sea wave produced by a submarine earth movement or volcanic eruption
- *New "Standard Funk & Wagnall's New "Standard" Dictionary of the English Language, 1961*
  - an extensive and often very destructive ocean wave caused by a violent submarine earthquake: erroneously called a tidal wave
- *Webster's Third New International Dictionary, 1963*
  - a seismic disturbance of the ocean : a great sea wave produced by a submarine earth movement or volcanic eruption
- *The Random House Dictionary of the English Language (1), 1966*
  - an unusually large sea wave produces by a seaquake or undersea volcanic eruption
- *The American Heritage Dictionary (1), 1969*
- *The American Heritage Dictionary (3), 1992*
- *The American Heritage Dictionary (4), 2000*
  - a very large ocean wave caused by an underwater earthquake or volcanic eruption. Also loosely called "tidal wave."
- *Macmillan Contemporary Dictionary, 1979*
  - swift, powerful ocean wave caused by an underwater earthquake and causing great destruction to any land area it strikes

- *Webster's Ninth New Collegiate Dictionary* (cap, 1907), 1983
    - (ca.1907): a great sea wave produced by submarine earth movement or volcanic eruption
  - *Webster's New World Dictionary*, 1988
    - a huge sea wave caused by a great disturbance under an ocean, as a strong earthquake of volcanic eruption
  - *Merriam Webster's Collegiate Dictionary (10)*, 1995
    - (1907): a great sea wave produced by submarine earth movement or volcanic eruption
  - *The New Penguin English Dictionary*, 2000
    - a huge sea wave that is produced by underwater earth movement or volcanic eruption, causing severe devastation if it reaches land.
  - *The Random House Dictionary of the English Language(2) CD-ROM*, 2004
    - an unusually large sea wave produces by a seaquake or undersea volcanic eruption
- [1905-10]

最初の文献は、*OED* では 1897年のラフカデオ・ハーンのもので、*COD (10)* (1999)は C19としていますが、*Webster's Ninth New Collegiate Dictionary* (1983) と *Merriam Webster's Collegiate Dictionary (10)* (1995) はともに 1897年とあり *OED* と同じです。*The Random House Dictionary of English Language(2)* (1983)は 1905-10年としています。

*Cambridge Advanced Learner's Dictionary (3)* (2003) に *Mainly Us* とあり、イギリス系 *OALD* では(5) (1995) はなく (6) (2000) に初めて登場しています。*COD* は (5) (1964)、*OED* は (1) (1986)、*POD* は(8) (1992)から記載されています。一方、アメリカ系は *Webster's New International Dictionary (2)* (1958)、*New "Standard"* (1961) に登場しています。これらの辞典以外にもこの語を記載したのはアメリカ系のものが多く、イギリス系では最近の辞典にも取り上げていないものがあり、関心度はアメリカの方が高く *mainly us* とした *CALD (3)* の説を裏付けしている印象を受けます。

*The Japan times*: エバンス・M・年恵『英語になった日本語』1990年に **tsunami** が取り上げられていて次のように書かれている。

《**tsunami** という英語は、借用された経路がおもしろい言葉です。**tsunami** の英語文献初出は19世紀末ですが、海洋学の専門語になったのは1960年代です。言うまでもなく、「津波」は日本語ですが、「津波」という現象は日本だけに見られるものではありません。**Tsunami** が英語になる前は **tidal wave** が使われていました。1960年代になって、海洋学者たちの間で「英語で **tidal wave** と呼ぶ現象は、この言葉の意味と全く関係がない。これでは不合理だから、この現象は別の名前に変えようということになり、選ばれたのが日本語の「津波」でした(『借用語インデックス』/ 1983年刊)。**tsunami** という日本語が国際語として選ばれたのは、津波が多い日本からの英語の報告が、はやくも1904年に出にされており、最初から **tsunami** あるいは **tunami** として専門の出版物で出版されたからです。

このように、**tsunami** という言葉が特定の自然現象を表す国際語として使われると、日本語でそれまで使われていた広い意味での「津波」という言葉にも影響を及ぼしました。日本語が国際語として借用された影響で、原語の日本語に意味の限定が起きた、という興味深い現象です。国際語としての **tsunami** は、*OED* の語義で示されている現象のみをさします。ところが、日本語では「津波」という言葉は、波が高くなれば、その原因にかかわらず、「暴風津波」とか「風津波」というような使い方があったのです。国際語である **tsunami** の意味では、「津波」のこのような使い方はできません。今では、波が高くなる原因が **tsunami** とは異なる場合には(つまり、「暴風津波」や「風津波」と呼ばれていた現象には)、「高潮」が遣われています。(『朝日現代用語・智恵蔵』/ 1990 年刊)》

英語の「**tsunami**」と日本語の「津波」との意味上の違いを明示していて大変参考になります。ついでに『広辞苑』と『大辞林』に記されている説明を紹介する。

#### 『広辞苑』

##### つ-なみ【津波・津浪・海嘯】

地震による海底陥没、海中への土砂くずれ、海底火山などが原因で生ずる水面の波動。海岸付近で波高が高くなり、湾内などで大きな災害をひき起す。高潮を暴風津波ということもある。

##### やま-つなみ【山津浪】

山崩れの大規模なもので、多量の土砂や岩屑が山地から急激に押し出すこと。豪雨の後や大地震などで起りやすい。

#### 『大辞林』

##### かぜつなみ 【風津波】⇒【高潮】

台風や低気圧により海水面が異状に上昇する現象。南に面した湾には湾の西側を台風が通過することにより起りやすい。



### 3 実例に基づく onomatopoeia (擬音語・擬声語・擬態語)

#### 寸見

英語の onomatopoeia は擬音語、擬声語、擬態語と訳されています。『広辞苑』は【擬声語】を音響・音声をまねて作った語。「さらさら」「ざあざあ」「わんわん」の類。【擬声語】を人・動物の声を写した語「きやあきやあ」「わんわん」の類。【擬態語】は視覚・触覚など聴覚以外の感覚印象を言語音に写し表す語。「にやにや」「ふらふら」「ゆったり」の類と説明しています。

言葉はその話される地域や国の歴史・風土・文化を表しますが、日本語の擬音語・擬声語・擬態語はきわめて豊富でその数は韓国語と類似していて英語よりもはるかに多く、それだけに翻訳はきわめて困難なことが多々起こります。取り上げた onomatopoeia は私のコーパス(カード箱)にあるアルファベット順に並べたこの分野のごく一部です。参考のため語源なども併記しました。

#### 3.1 bang = ドスン[ドカン・バン・バタン・ガシャン]という音/clap = バリバリ、バーン、ピシヤリという破裂音やそのような音/clatter = ペチャペチャ喋る声

※ bang: 古ノルド語 banga(つちでとんとん打つ)に関連する。初期近代英語から。

clap: (古英語 claeppan からと思われるが、古北欧語 klapp や中ドイツ語 klaph が中英語に再び入ったものとも考えられる。元来擬音語。英語では初め破裂性の音を立てることを意味した。

clatter: 擬声語、中英語から。

- 1) ...the window shot with a “bang.” —Peter B. High 米 (*American Life*)  
(窓はバーンと音を立てて閉まった)
- 2) I think I **banged** my head against the wall. —Max Shulman 米 (*The Unlucky Winner*)  
(頭を壁にバーンとぶちつけたと思う)
- 3) The door **banged** open without having been rapped on.  
—J. D. Salinger 米 (*For VirEsme with love and Squalor*)  
(ドアはコツンと音もなくバーンと音を立てて開いた)
- 4) One room I had was by a fire door that **banged** shut every time anyone went upstairs.  
—Richard Goodman 米, *Oh! England*  
(私が借りた部屋の一つは誰かが二階に上るたびにバント音を立てて閉まる防火扉のそばにあった)
- 5) Deanne came up first with a mouthful of water, and her head **banged** against the wood.  
—Norman Wymer 英 (*Lucky to be Alive*)  
(デーンは水を口いっぱい飲み込み、頭を船の舷にドスンとぶつけ最初に這い上がった)
- 6) A small boy...ran through the shop knocking things over, **banging** into people , screaming...  
—Ken Method 英 (*Life's Little Ironies*)  
(小さな男の子が物にぶつかり、人々にドンと当たりながら、大声を上げ店の中をかけまわっ

た)

- 7) Out from the cloud there came such a **banging** and hammering and **clapping** and **clattering** as the people of that town never heard before ... —Howard Pyle 米 (*Woman's Wit*)  
(雲間からドン、ドンドン、バタバタ、カタカタというその町の人々がそれまで聞いたこともないような音が聞こえてきた)

### 3.2 bark = 犬がほえる / howl = 遠吠えする / whine = クンクン泣く / yo, o, o = 金切り声で泣く

- 8) Soon the dogs were all tearing down the field of wheat. I never heard such a noise as they made. They did not **bark**, nor **howl**, nor **whine**, but kept on a **“Yo! Yo,o,o! Yo! Yo, o,o!”** at the top of their voices. —Anna Sewell, 英 (*Black Beauty*)  
(まもなく犬たちはみな大麦畑を駆け下りていた。犬たちのそのような声を聞いたことがなかった。吠えるのでもなく、遠吠えでもなく、クンクンと泣くのでもなく、声を絞って金切り声で「ヨー、ヨー、ー、ー、ヨー、ー、ー」と泣き続けた)

### 3.3 blab = ペラペラ喋る

※ 古ノルド語の擬音語が中英語に入ったと思われる。

- 9) “Just you keep quiet, old man, and you shall get out too. If you **blab** they’ll flog the life out of me.” —Leo Tolstoy (*God Sees The Truth, But Waits*)  
(まあ、ご老人、ちょっと静かにしてください。そうすれば外に出あげます。喋ったら鞭打って私から命をたたき出します)

### 3.4 blur = 口をすべらせる

- 10) Full of sympathy and international good will, I **blurted** out, “Why don’t you come fishing with all of us next weekend?” —Michael L. Sherard, 米 (*Tacit Assumptions*)  
(共感と国際親善の気持ちに触発されて、「次の週末に私たちみなと魚釣りにいらっしやいませんか」と口をすべらせた)

### 3.5 bob = 軽く会釈をする

※ 擬音語と思われるが不詳。中英語から。

- 11) I find myself **bobbing** up and down like a cork in water when in the company of my Japanese friends. —Anne MacDonald Muri, 米 (*Anne's Watching Japan*)  
(日本の友人と一緒に水面に浮かぶコルクのようにあちこちで会釈をしてるのに気づく)

### 3.6 boo = 軽蔑の声、不満の声、ワァワァ泣く

※ 擬音語。19世紀より。

- 12) “**Boo!**” cried the voice of John Ried. —Charlotte Bronte, 英 (*Jane Eyre*)  
(ジョン・リードはブーイングとして大きな声をあげた)
- 13) Not bad, not good, just a couple of boys who went wrong, Tio nineteen, Leaky eighteen, **boo-boo-boo**, their poor mamas, always with basted hearts.  
—William Saroyan, 米 (*Inhale and Exhale*)  
(困った子でも良い子でもないのに、悪事を働いた 19 才のテオ、18 才のリーキー二人はいつも悲しいことばかりで、かわいそうにお母さん達はワァワ泣き不満の声を上げてる)
- 14) The only thing that seemed to anger him was **being booed** by the fans.  
—Virginia Coigney (*Who Did It?*)  
(彼を怒らせた唯一のことといえば、ファンによってワァーワァー詰られることだった)

### 3.7 bow-wow = 犬の吠え声、夫婦喧嘩の声 / mew = 猫の鳴き声 / wow = 擬声語

※ 初期近代英語から。

- 15) “Bow-wow,” said the dog, He sat up with his eyes on Betty. —(*Standard Jack and Betty 2*)  
(犬はワンワンと吠えベティーの目じっと見ながらすわった)
- 16) Dogs by **bow-wowling**, and cats by **mewing**, for instance, can just as plainly express a desirer to have a door opened or closed as if they requested it, in so many words.  
——出典不詳  
(たとえば、犬はバウワウ、猫はミューと泣くだけで多様な言葉でドアを開いてください、閉めてくださいという願望をまったく明瞭に表現できる)
- 17) They had been quarrelling now for nearly three quarters of an hour... Madame kept up her loud shrillness continuously and without flagging; her voice had, even in anger, a curious, level monotony. But Monsieur spoke now loudly, now softly, with emphases and modulations and sudden outbursts, so that his contributions to the squabble, when they were audible, sounded like a series of separate explosions. **Bow, wow, wow-wow-wow, wow**—a dog barking rather slowly.  
——Aldous Huxley, 英 (*Fard*)  
(彼らが口論をやりだしてから、もうかれこれ 45 分になる。奥さんは高いきいきい声でわめき続け、その勢いも衰えを見せなかった。彼女の声は、怒っているときでさえ、奇妙な、平板調の単調さを供なっていた。しかし旦那さんは時には声を張り上げ、時にはもの柔らかに喋り、強めたり、抑揚をつけたり、また突然かっとなったりしたので、このいさかいに対する彼の貢献ぶりは、聞こえる時には、一連の別個の爆発のように響いた。ワン、ワン、ワンーワン、ワン——犬が何だかゆうちように吠えていた。)  
夫婦喧嘩を犬の吠え声にしてるのは面白い。日本語ではないことだろう

3.8 **brrrr** = 寒くて震える / **burrarrrrrrrrrr** = 太鼓の音 / **brurrarrrrrrrrrrrr** = 改造高速自動車の音 / **brrrrm** = スポーツカーの音

18) Harry: Pretty bad. Real Christmas Eve weather, eh? I'm glad we're not walking up from the station.

Delia: **Brrrr!** Yes. It would be a pretty long five miles tonight.

——L. Du Garde Peach (*The Stranger*)

(ハリー: ひどいね。ほんとにクリスマスイブになったね。駅から歩いてくる途中でなくてよかったね。

ディーリア: ブルブルブルと震える! そうだね。5 マイルはうんざりするほど長いでしょうね、今夜は)

19) The second drummer raised his drumsticks and beat a reveille on his drum: **Brrrrrrrrrr-run-tum-tiddle-um-tum TUM!** ——Joan Aiken, 英 (*Tales of a One-Way Street*)

(第二鼓手が太鼓ばち持ち上げ太鼓で起床ラッパをたたいた。ブルルルルルルルルルルルー・ラン・タム・テドル・アム・タム タム)

20) When they drive down the street at high speed, the air is filled with sound. The sound seems something like **Burrarrrrrrrrrrrh!!!** Or **Bahrrrrumph!!** or **Wuraowwwwwww!!!** It's noisy but Hot Rodders love it. To them it is like music. ——Ernest Allan Richer, 米 (*America At Play*)

(ハイスピードで街を走るときあたりが騒音に満たされる。そのバイクの音はブルラルルルルルルまたはバルルルラムフまたはウラオウウウウウのような音である。やかましいが暴走族が好きな音だ。彼らには音楽のように聞こえるのだ)

21) **Brrrm!** The sound of the powerful engine broke the quiet of the morning. **Brrm!**

**Brrm!** The powerful sports car disappeared into the early morning sun.

——L. G. Alexander, 英 (*The Mirror Maker*)

(ブルーム。強力なエンジンの音が朝の静けさを破った。ブルーム、ブルームを強力なスポーツカーは早朝の太陽の方向に消えて行った)

3.9 **bump** = バタンとぶつかる、偶然ばたりと出会う、振動

※ 擬音語として初期近代英語から。

22) I **bumped** smack into a baby carriage. ——J. D. Salinger, 米 (*The Laughing Man*)

(よろめいてバタンとベビーカにぶつかった)

23) According to my friend, the psycho-linguist, Japanese people even seem to like **bumping** into each other. ——Michael. L. Sherard, 米 (*Facit Assumption*)

(友人の心理言語学者の言葉では、日本人はぶつかり合うことを好みさえするようだ)

24) What I like to do first after a long time away from America is to visit a large supermarket where I do not need to worry about **bumping** into things or people.

——Richard F. Dickinson, 米 (*America*)

(長くアメリカを離れていたのでまず最初にしたいのは、物や人にぶつかる心配の必要の無いスーパーに行くことです)

- 25) He **bumped** into a friend and explained: “Yes, these trousers are a bit shabby but you see, nobody knows me here in London.”. —Russell Barnes, 英 (*What's New in Britain*)

(彼は友達に偶然ばったり出会ったので「確かにこのズボンは少しすり切れてるが、このロンドンでは誰も見知りはいませんので」と説明した)

- 26) They attended on their masters in their walked to keep them from falling down into a ditch or butting their heads against every post or **bumping** against other in streets.

—Jonahan Swift, 英 (*Gulivers Travels*)

(彼らは主人たちが外出するとき溝に落ちたり、頭を柱にぶちつけたり、路上で人に突き当たったりないように付き添った)

- 27) The takeoff area is covered with grass. So the ride is not very smooth. Howard tells his passengers to expect to feel many **bumps** in the first few moments.

(着陸地点は草で覆われていので着陸のときはかなりがたつく。ハワードは乗客に最初のしばらくの間は振動が続くことが予想されることを告げる)

### 3.10 burp = ゲップする

※ 擬音語として 20 世紀から。

- 28) You cannot **burp** when you are lying on your back.

—Barbara Seuling, 米 (*You can't Sneeze Without Your Eyes Open*)

(あお向けにねたままゲップはできない)

### 3.11 bustle = ごったがえす

※ before 1376, bustlen 擬音語。

- 29) They broadcasted scenes of Barcelona **bustling** with people during the Olympic Games.

—Gary Dendo, 米 (*Ethnic Peoples: Shaping the 21<sup>st</sup> Century*)

(彼らはオリンピックの期間中群集でごったがえすバルセロナの光景を放送した)

### 3.12 buzz = ハエがブンブン飛ぶ

※ 擬音語として中英語から。

- 30) A large fly **buzzed** noisily against the window.

—William S. Maugham, 英 (*Of Human Bondage*)

(大きなハエが窓に突き当たり、ブンブンと大きな音を立てていた)

### 3.13 cackle = げらげら笑う、甲高い笑い声

※ 1889 年から。

- 31) He had a high, rasping voice and his laugh was a raucous **cackle**.

—William S. Maugham, 英 (*Episode*)

(彼は甲高いきしむような声の持ち主で、笑うと甲高いしわがれ声になった)

### 3.14 caw = カラスの鳴き声

※ 擬音語、初期近代英語から、1589 年から。

- 32) Mrs. Crow was much delighted, and began to sing “Caw! Caw! Caw!” —Aesop Fables  
(カラスさんは大変喜びで、カー、カー、カーと歌い始めた)

### 3.15 chatter = ぺちやぺち喋る、歯ががたがた震える

※ 擬音語、中英語から。もとは色々な鳥の鳴き声をいったが、現在では(かささぎ)など人に近い声をだす鳥のさえずり声に用いられる。

- 33) They go to movies or eat together and chatter and laugh as if they never had a serious idea in their minds. —Turnette Olsen, 米 (*Linda's Adventure*)  
(彼らは一緒に映画を見、食べ、深刻に悩むことがないようにぺちやぺちや喋り笑う)
- 34) I arrived home with my teeth chattering uncontrollably and was told to go right straightly to bed. —Jerome D. Slinger, 米 (*The Laughing Man*)  
(歯が抑えきれない状態でがたがた震えながら家に戻ると、まずぐ寝なさいといわれた。)

### 3.16 chirp = 甲高い声でちいっちいっとう鳴く / trill = 鳥のさえずり / warble = 鳥のさえずり

※ chirp: 擬音語、中英語から語末の p 音は鳥のくちばしの動きを示すといわれている。

- 35) The nightingale, however, sings in the daytime, too, but his voice is not always recognized amidst the chirping, trilling and warbling of all the birds. —(*My English Reading*)  
(ナイチンゲールはしかし日中にも鳴くが、その声はすべての鳥のちいちいという声、さえずり、声を震わせる声のなかでは必ずしも認知されるとは限らない)

### 3.17 chuckle = くすくす笑う オス鳥がコッコッと鳴く / giggle = 神経質そうにまた、または恥ずかしそうに くすくす笑う

※ chuckle: 鶏の鳴き声の擬音語 chuck に反覆を表す動詞語尾 le-ガ付いたものと思われる。初期現代語から、初めは大声で笑う[laugh]意味でも用いられたが、現在は声を抑えた笑いをいう。

giggle: 擬音語として初期近代英語から。

- 36) He tilled back in his chair, chuckling with laughter. —Liam O' Flaherty, 英 (*Going into Exile*)  
(彼は含み笑いをしながらいすに座り後え傾いた)
- 37) All of us, including the guest enjoyed a silent chuckle over Charlie's obvious dilemma. —Edith F. Hunter, 米 (*Woman, the Teacher of Values*)

(われわれはみな、その客もそうだが、チャーリの自明のジレンマを黙ってくすくす笑いをして楽しんだ)

- 38) “Sure, sure,” I said with what I hoped would be a reassuring **chuckle** but it turned out to be a hysterical **giggle**.  
——Max Shulman, 米 (*The Sugar Ball*)

(「むろんぜったいだよ」と相手を安心させるような笑いであるようにと望んで言っのだが、ヒステリックな笑いになっっていることがわかった)

### 3.18 chug-chugging = ボツンボツン音を立てる

※ 1886 年から。

- 39) Once there was a boy called Euan, and it was going to be his birthday next week. He wanted a tractor that he could sit on, and it would go **chug-chugging** along.

——Joan Aiken, 英 (*The Queen of the Moon*)

(昔ユウアンという男の子がいた。来週は誕生日を迎えようとしていた。彼は座ることのできるトラックターがほしかった。ボツンボツン音を立てて動くのだった)

### 3.19 clatter = ガチャガチャ、ボコボコ音を立てる

※ 擬声語。中英語から。

- 40) As he relaxed and slipped into a doze, the spoon went **clattering** to the floor.

——Barbara Seuling, 米 (*You Can't Sneeze Without Your Eyes Open*)

(彼がリラックスしてまどろんだとき、スプーンがガチャガチャ音を立てて床に落ちた)

- 41) Uncle Joe had a flat green cart and a white **clattering** little pony.

——Herbert E. Bates, 英 (*The Place Where Shady Lay*)

(アンクル・ジョーは低い緑色の馬車と白色のボコボコ音を立てる子馬を持っていた)

### 3.20 click = ガチッと言う音(を立てる) / 舌打ちをする、大当たり、カチリ(突然原因がわかる)

／creak = キーキー鳴る / changing = ガン、ガン、カランとなる

※ click: 擬声語。初期英語から。

creak: 中英語。creken より、擬声語。

- 42) Though he had never played at billiards, he seized a cue, but when he touched them the balls gave such a resounding **click** in the hush of the chamber that he put the cue away instantly.

——Virginia Woolf, 英, 作品不詳

(彼は玉突きの経験は無かったが、キューを手に取った。玉に触れると静まりかえった部屋にカチリという音が鳴り響いたので、すぐキューを元へかえした)

- 43) I could hear the **click** of the deck-chair he had brought.

——Robert Lynd, 英 (*Searchlights and Nightingales*)

(彼が持ってきた折りたたみ式椅子がガチッと音を立てた)



- 44) He drove his spade into the ground...and **click!** He struck something hard that rang under his foot with a sound as of iron. —Howard Pyle, 米 (*Women's Wit*)  
(彼は鍬を地面に押し入れるとカチッという音がした。鉄のような音だが足元で何か硬いものを打ったようだった)
- 45) The hammer **clicked** on the cap with a dull, dead sound. —Thomas B. Aldrich, 米 (*The Story of a Bad Boy*)  
(銃鉄は鈍い静かな音を立てて雷管にカチリとあたって)
- 46) **Click.** I heard a distinct **click** in my head. Then a terrifying calm came over me. I felt drained on emotion, no longer capable of fear or worry. —Max Shulman, 米 (*The Unlucky Winner*)  
(カチリ。僕の頭の中ではっきりカチリという音がした。それから、ものすごい落ち着きが襲った。もう恐ろしさや心配を感じとる能力がなかった)
- 47) Many of these visitors, busy **clicking** their cameras see less of this wonderland than did Emerson of Yosemite. —Douglas Stout, 米 (*Understanding Spoken English*)  
(訪れたこれらの人の多くはカメラのシャッターをカチと押すことに忙しく、ヨセミテのエマーソンのように景勝地を堪能する人少ない)
- 48) There was a **clicking** sound of bark and wood. —Frank R. Stockton, 米 (*The Lady or the Tiger?*)  
(木の皮と幹がカチッという音をたてた)
- 49) They saw that blood was flowing from his mouth. They **clicked** their tongues to show their pity. —Leo Tolstoy (*How Much Land Does a Man Need?*)  
(彼らは血が彼の口から流れ出ているのに気がついた。彼らは悲しみを示すために舌打ちの音を立てた)
- 50) The idea **clicked**, and sub sub-subscriptions rolled in. —Blake Baxter, 米 (*Big Business in America*)  
(構想がガッチリ大当りで、申し込みが殺到した)
- 51) It **clicked**!! I had forgotten to put on my lights!! —Caroline Dale, 英 (*My Culture Shock*)  
(カチッときた!! 「そうそうなのだ、原因がわかった」。車のライトを付けるのを忘れていたのだ!!)

### 3.21 clink = チャリン、カチン]と鳴る[鳴らす](音)馬の蹄の音

※ 中オランダ語の擬音語 klinken が中英語に入った。

- 52) Everybody was laughing and talking, shaking hands, **clinking** glasses, stamping on the floor... —katherine Mansfield 新西蘭, *Frau Brechenmacher Attends a Wedding*  
(みな笑ひ、おしゃべりをし、握手をし、グラスをカチンカチン鳴らし、床を踏みつけていた)
- 53) Very rarely do I hear even a **clink** of crockery; never the closing of a door or window. Oh,



blessed silence! —George Gissing, 英 (*Spring*)  
(陶器のカチンという音さえめったに聞かない。ドアや窓の閉まる音もまったくない。アーなんと  
いう素晴らしい静寂さなのだろうか！)

- 54) Keawe stood in his front balcony, and listened to the **clink** of the horse's shoes.  
——Robert Stevenson, 米 (*The Bottle Imp*)  
(キーウィは表のバルコニーに立ち、馬の蹄鉄のカチンという音に耳を澄ました)

- 55) Mrs. Smith could hear the sounds of tea being prepared; the cups and saucers **clinking**, the  
boiling water being poured into the teapot.  
——Mallory Fromm, 米 (*Culture Without Conflict*)  
(スミス夫人は茶筌の音; 受け皿付の茶碗のガチヤンという音、沸騰している湯が急須に注が  
れる音を聞くことができた)

### 3.22 clip = パチット切れ取る / clip-clop = カランコロンと音を立てる

※ clip: 古ノルド語 klippa (= to cut)が中英語にはいった。はさみで切る意味に擬音的な影  
響が加わって「ぱちんと切る」というような鋭い動作と結びついた意味を持つようになった  
と思われる

clop: (一般語) ぱつかぱつかという馬の足音。擬音語、19世紀から。

- 56) I was astonished to see a fellow commuter **clipping** his fingernails.  
——Abigail Van Buren, 米 (*Dear Abby II*)  
(同僚の通勤者が指の爪をパチリと切り取るのをみて驚いた)

- 57) Two tall foreigners were walking **clip-clopping** in geta through the brightly lit thoroughfare.  
——John Newman 英, *Talking to Japan*  
(二人の背の高い外国人が明るく電灯に照らされた大通りを 下駄を履きカランコロンと音を立てて  
歩いていた)

- 58) The sound of a jet, an engine warming up, even **clopping** of shod hooves on pavement brings  
on the ancient shudder, the dry mouth and vacant eye, the hot palm.  
——John Steinbeck, 米 (*Travels with Charley*)  
(ジェット機の音、動き始めたエンジンの音、舗道のかなぐをつけたひずめのパカパカという音  
を聞くと、幼いころの身震いが始まり、口かがわき、目がうつろになり、手のひらが熱くなる)

### 3.23 coo = 鳩がクウクウと鳴く、クウクウといってお別れの挨拶をする

※ **名**としてくうくうという鳴き声、擬音語。

- 59) She slept that night in the robbers' castle, beside a little robber-maid and heard the  
wood-doves **cooing** that they had seen Kay. ——Andersen's Fairy Tales (*The Snow Queen*)  
(彼女はその晩盗賊のお城で、盗賊の小さな娘のそばで眠り、山鳩がケイを見たといってお別  
れを告げるクウクウの音を聞いた)

60) I am looking at my little dove, who is sitting on the roof to coo good-bye.  
——The Brother Grimm (*Hansel and Gretel*)

(屋根にとまり「クウクウ」とさよならをいって鳴いている小鳩を見ていると)

61) A dove is cooing farewell to me from the roof. ——*Ibid.*  
(鳩が屋根からクウクウと別れの挨拶をしている)

### 3.24 doodle-doo = コケッココー、普通は cock-a-doodle-doo = 鶏雄鳴き声

62) Someone has got to fetch out that doodle-doo  
Let them and the doodle-doo kill each other.  
eight boys had been slaughtered by the doodle-doo thing in the cabin  
——James Mattjw Barroe, 英 (*Peter Pan and Wendy*)

### 3.25 crack = ビシッ、バーンなどの鋭い音、花火の音

※ ゲルマン系の言語に共通する擬音語起源の語で、「鳴り響く」意味の古英語 *cracian* から。

63) There were no drums now, no whistles, no horns —only the shouts of children and the crack of the fireworks as they exploded high over the dark river.  
——Peter Milward, 英 (*A Country Diary in Tokyo*)

(暗い川の上空で花火が炸裂したときドラムの音も、口笛の音も、角笛も聞こえず、子供の叫び声と花火のバーンという音が聞こえるだけであった)

### 3.26 crackle = パチパチ、バリバリという音

※ *crack* の反復形。

64) The crackle of the flames woke the old man, ...  
——John Aiken, 英 (*The Kingdom Under the Sea*)

(炎の パチパチ という音で老人は目を覚ました)

65) Someone had ignited little fires of merriment that were crackling at the windows...she felt the frost *crackling* under her feet. ——Herbert E. Bates, 英 (*A Christmas Song*)  
(窓際で バリバリ 音を立てている 歓喜の小さな炎の火をつけた。彼女は霜が足元で バリバリ 音を立てているのを感じた)

66) A breeze caught the paper and crackled it upward, like the flutter of a wing, ...  
——*Ibid.* (*Last Ball*)

(微風が紙にあたり鳥の羽のはばたきのように バリバリ とめくり上げた)

67) I listened, and heard a soft rushing sort of noise and a low crackling and snapping.  
——Anna Sewell, 英 (*Black Beauty*)  
(耳を傾けると静かなサーという音、低いぱちぱちという音と パチン という音が聞こえた)

**3.27 crash = ガラガラ、ドシン、ガチャン、ものがくずれたり衝突する時などのすさまじい音**

※ 中英語の cracken[=crack]の異形 crashen から、また craze(ひび割れをつくる)と dash(たたきつける)の混成とも考えられる)小西友七『 英語シノニムの語法』crash「堅いものを」押しつぶす、crush 「柔らかいもの」を押しつぶす;「堅いものを」砕く、crash 「家などを」押しつぶす、crush 「動物などを」押しつぶす;「石などを」砕く

- 68) There is a **crash** of glass as the lamp is smashed. —(New English Readings 2)  
(照明器具が撃たれたときガラスのガチャンという割れる音がする)
- 69) One day there was a storm. The terrible unseen wind came and struck the proud **Crash!** went the trunk, down came all the beautiful branches, and the Tree fell into the river.  
——Aesop's Fables (*The Oak and the Reed*)  
(ある日嵐が吹いた。ものすごい目に見えない風が吹き尊大なオークの木を直撃した。幹は凄まじい音をたて、美しい枝はことごとく落ち、木は川に倒れた)
- 70) He (= a tuna) fell into the water with a **crash** that sent spray over the old man and over all of the skiff.  
——Ernest Hemingway, 米 (*The Old Man and The Sea*)  
(マグロはバシヤンという言う音を立て海に落ち、老人とすべての小船にしぶきを散らした)
- 71) **CRASHHHH!** **AAAAAGH!** **OOOOOOFFFF!** **B-B-B-B-B-B-BANGGG!** The star of the film is on fire. Someone shoots him, and blood hits the wall from a hole in his back. He falls back, through a window—a closed window. —Mark Farrel (*The World of English*)  
(ガラガラ、ドシン、ガチャン バーン 映画のスターが火まみれになる。誰かが彼を撃つ。そして血が彼の背中の穴傷から壁に飛び散る。彼は倒れ窓—閉まった窓を破って落ちてゆく {映画の一シーン})

**3.28 creak = 耳障りなキイキイ軋む音 / groan = 物がギーギー軋む音、うめき声 / clang = ガランガランという音 / trip trap = キーギーという音**

※ creak: 中英語より、擬音語  
groan: 古英語 granian から、grin に関連がある。  
clang: 擬音語。初期近代英語から。

- 72) He came in with **creaking** boots, walked straight up to the throne, and began to say quite funny things.  
——Robert L. Stevenson, 英 (*The Strange Case of Dr. Jekyll and Mr. Hide*)  
(かれはキーキー音のする長靴を履いて中に入り、国王のほうにまっすぐ歩き、滑稽な話を喋り始めた)
- 73) It (= A cable) **creaked and groaned** its way up Powell Street past Union Square, up, up, up, and round into china-town, then **clattered** and swerved and **clanged** on to San Francisco Wharf.  
——Douglas Stout, 米 (*Glimpses of American Life*)

(ケーブルカーはユーにオン・スクエアーを通りポウエル・ストリートをキイキイ・ギーギー音を立ててどンドン登り、ぐるっと回ってチャイナタウンに入りガタガタ音を立てて向きをかえ、ガラランガラランとサンフランシスコ埠頭へと走った。)

- 74) Then they all three started to run across the wooden bridge. The little goat went first. The boards of the bridge **creaked and groaned** as he ran, **trip, trip, trip trap**.

——(Revised Short Stories)

(それから総員三匹は木の橋を渡り始めた。小山羊が最初に渡った。バタン、バタン、バタン、バリンと足音を立てて渡るとき橋の板がキーキーギーと音を立てた)

### 3.29 croak = ガーガー声で鳴く

※ 擬音語。中英語から。

- 75) At night the frogs **croak, croak, croak**, such a racket.

——William S. Maugham, 英 (*A Writer's Notebook*)

(夜になると、蛙がガー、ガー、ガー大きな騒音をあげる。)

- 76) It was very still and but for the occasional **croak** of the chik-chak the silence was intense.

——William S. Maugham, 英 (*Ah King*)

(大変静かな夜であった。時折聞こえるヤモリの鳴き声があれば静寂さは類のないものであった。)

### 3.30 crow = 泣きたてる

- 77) “Right you are!” laughed George; “and all alive **crowing** and **kicking** that boy was.”

——Stephen Southwold, 英 (*Sailor George's Tales*)

(「君の言うとおりだ」その赤ん坊はちゃんと息が通っていて泣きたてて、ぴんぴんしていたとジョウジは笑った。)

### 3.31 dilly-dally = ぐづぐづしている

※ dally の反復形が初期近代英語に入った。dally は古フランス語 *dalier* (= to chat) から。

- 78) The temperamentally late man may **dilly-dally** as he pleases, but he has only to ring for a taxi, and by this means, though setting out late, he will contrive in the end to be early.

——Robert Lynd, 英 (*Taxis*)

(生来の気性で遅刻する人は自分の好みどおりぐづぐづしているかもしれない、しかしこのようなしぐさでも、タクシーを呼ぶだけで、出発は遅れても結局は早く先方につくということになる。)

### 3.32 dit-dit-dit, dah-dah-dah, dit-dit-dit = 無線電信遭難信号 トントン、ツーツー、トントン

- 79) The letter S is sent as three short impulses. This makes SOS a readily identifiable signal in any

language; “dit-dit-dit, dah-dah-dah, dit-dit-dit.” —Tad Fuleja, 米 (*Fabulous Fallacies*)  
(S という文字は短い 3 つのインパルスとして送信される。このため SOS はどのような言語でも容易に識別することのできるトントントン、ツーツーツー、トントントンという信号になっている。)

### 3.33 Dizzy and Daddy = クルックルパー

- 80) One very famous pair of baseball players' names was “Dizzy” and “Daddy” Dean. **Dizzy and Daddy** means almost the same thing. They mean something or somebody is rather strange or funny, something like Japanese kuru kuru pa. —Ernest Allan Richter, 米 (*America at Play*)  
(野球選手に大変有名なデジイ・デーンとダで・デーンという二人がいた。デジイとダデは大体同じことを意味していて、日本語のクルックルパーのように何かまたは、誰かがとても奇妙または滑稽な。)

### 3.34 doodle-doo = 鶏の鳴き声 コケコッコー、鶏

※ 正式には “cocka-doodle-doo”。ドイツ語 “kikeriki”、フランス語 “coquelico”、イタリア語 “chicchirichi”、スペイン語 “quiquirigui”、中国語「姑味」または「グググ」その他。1983 年 12 月 23 日 NHK 脱線問答で紹介していたもの:ヒンデー語「ククルーク」、ロシア語「クウカレクー」、インドネシア語「クククルコック」、マレー語「ウーウーウー」

- 81) Someone has got to fetch out **that doodle-doo**... Let them and **the doodle-doo** kill each other... Eight boys had been slaughtered by **the doodle thing** in the cabin.  
—James M. Barrie, 英 (*Peter Pan and Wendy*)  
(誰かがあのコケコッコの奴をもってこなければならぬ。彼らとコケコッコの奴に殺し合いをさせよう。男の子8人が小屋の中でコケコッコウの奴に虐殺されていた。)

### 3.35 rip, drip, dip = ボタリ、ボタリ、ボタリ(ものが滴り落ちる音)

- 82) In one of the pauses between the sounds of waves, I heard a curious noise in the house —a sort of moan coming at regular intervals. And, as I sat up to make out where it was, another sound caught my attentive ear. **Drip, drip, drip**, went something out in the hall, and in an instant the tale told me on Sunset Hill came back with unpleasant reality.  
—Louis M. Alcott, 米 (*A Ghost Story*)  
(波間のとぎれる間に家の中で奇妙な音がするのを耳にした。うめき声のようなもので規則正しく間隔を置いて聞こえて来たのだ。それでどこから聞こえてくるのかと思って起き上がるとまた別の音が神経過敏になっている耳に入ってきた。何かボタン、ボタン、ボタンと外の玄関の間で音を立てているのだ。でたちまちのうちにサンセット丘で聞いた話が不快なほど真に迫ってよみがえってきた。)
- 83) **Drip, drip, drip** went something out in the hall... No rain had fallen for weeks, and peeping through my curtain, I saw the big, bright stars in a cloudless sky, so that explanation failed, and

still the drip, drip, drip went. —Louisa M. Alcott, 米 (*A Ghost Story*)

(外の廊下で何だかポタリ、ポタリ、ポタリという音がした。数週間雨が降っていない。カーテンを通して見てみると、雲ひとつない空に大きな、明るい星が見えた。それで雨が降っているというさっきの説明も駄目だった。しかもポタリ、ポタリ、ポタリという音がつづいていた。)

- 84) The dog never perceived how the flour went drip, dip ,dripping all the way from the palace to the soldier's room. —作者不明 (*Memories of Animals*)

(犬はどうして小麦粉が宮殿から兵士の部屋までずっとポタリ、ポタリ、ポタリと音を立てるのかどうしてもわからなかった)

### 3.36 um-rum-rum Dum-rum-rum = 雨がごぼうの葉に当たる音、バタバタ

- 85) One day, it began to rain very hard. "Listen!" said the father snail. "How it drums upon the burdock leaves —Dum-rum-rum! Dum-rum-rum!"

—Hans Christian Andersen (*Fairy Tales*)

(ある日雨が激しく降り始めた。「聞いてごらん。雨が、ごぼうの葉に当たってバタバタ、バタバタと音を立てているよ」と父のカタツムリが言った。)

### 3.37 flabbergast = 口も利けないほどびっくり仰天する、面食らう

- 86) An American professor is often flabbergasted by the traditional way of hiring college teachers in Japan.

—S. Andrew Kurokawa, 米 (*Common Misunderstandings in Japanese-American*)

(アメリカの大学教授は日本の伝統的な大学の教師採用の方法に驚くことが多い。)

- 87) I am a young married woman. During a job interview today, I was asked, "Do you plan to start a family in the near future?" I was flabbergasted. I never dreamed that such an inquiry would be made in this day of equal rights , working women, postponed parenthood, etc.

—Abigail Van Buren, 米 (*Dear Abby*)

(私は若い既婚の女性です。今日求人面接のとき近い将来子供を持つことを考えていますかと聞かれた。男女同権となり、働く女性が親になることを延期する今の時代にこんなことを聞かれて口も利けないほどびっくりした。)

- 88) Ned was flabbergasted. Fred Manson was silent for a bit.

—William S. Maugham, 英 (*Episode*)

(ネッドはびっくり仰天した。フレド・マンソンはしばし口が利けなかった。)

### 3.38 flash = 光がピカリ、パッと光る、きらめき / swish = 力が風を切る、シュー・シューという音 / crunch = ガリガリ、ボリボリという音 / thud

※ flash: 擬態語と考えられ、中英語から。なお fl-で始まる語は次の 2 種類が多い。1. 光の動きに関する語: flash, flare, flame, flicker など。2. 空気(中)の動きに関する語: fly, flap,

fit, flutter など)

swish: 擬音語として 18 世紀から。

crush: 擬音語、19 世紀より。

thud: おそらく擬音語起源で古英語 thyddah から。

- 89) As she says, her vocation “**flashed** into life”. —L. D. Peach, 英 (*Madame Curie*)  
(彼女が口をきいたとき天職が突然光のように生命を得た。)
- 90) Frost flashed across my mind —’his was no dust speck by my breathing blown,...  
—Edith F. Hunter, 米 (*Woman, the Teacher of Values*)
- 91) There was a **flash**, a **swish**, a **crunching**: the bound body lowed over the rich sacks, —two long blood-jets pumping from the shorn neck;—and the head rolled upon the sand.  
—Lafcadio Hearn, 英 (*Kwaidan*)

### 3.39 flibbertigibbet = おしゃべりで軽薄な人、落ち着きのない人

- 92) I think you are a horrid old—old **flibbertigibbet**.  
(あなたは恐ろしい年老いた—おしゃべりじいさんです。)

### 3.40 flick = バチっという音、バチッと電源を入れる(音)

※ 擬音語として中英語から。

- 93) **Flicking** on the switch of a television, we can easily observe these differences, and find others.  
—David Burleigh, 米 (*Japanese and Westerners*)  
(テレビのスイッチをパチッと入れるとこれらの違い。)

### 3.41 flicker = 灯火や光などがちらちら点滅する、火が揺らめく

- 94) I saw a red light **flickering** on the wall. —Anna Sewell, 英 (*Black Beauty*)  
(赤い光が壁の上で揺らめいているのを見た)
- 95) It must have been exciting to sit in the great hall, lit only by its **flickering** fire, and to listen to someone reciting a poem from memory.  
—D. Crystal/John Foster, 英 (*The Anglo-Saxons*)  
(大ホールに座り、唯一揺らめく炎だけに照らされながら誰かが詩を朗読しているのを聴くのは感動的であつたに違いない。)

### 3.42 flip = パラパラめくる、バタバタと動かす、ぐいと、ひよいと動かす / flop = どさっと落ちる音、どかんという音、ばたり倒れる音 / flip-flop = ばたばた「がたがた」鳴る(音)

※ flip: 擬音語として初期近代英語から。

flop: flap の異形として初期近代英語から。

- 96) **Flipping** back through the pages, I now find that, in the average, there are two or three pencil



makers on every page. —Jack Seward, 米 (*Words Across the Pacific*)  
(ページをめくり返していて、どのページにも平均して鉛筆製造会社の名前が二つ三つ載せてあるのを知る)

- 97) Lionel Secured the head-strap of the goggles between the big and second toes of his right foot, and with a deft, brief, leg action, **flipped** the goggles overboard.

—J. D. Salinger, 米 (*Down at the Dingley*)  
(リオネルは右足の親指と第二指の間に水中眼鏡の皮ひもを挟み、器用な短い脚の動きで、水中眼鏡を水中にぐいと動かした)

- 98) Lang Zing, when she saw the big silver bodies **flopping** in the bottom of the net, gave thanks to the river in her heart for sending her the big fish. —Pearl Buck, 米 (*The Good River*)

(ラング・ジングは巨体の銀色の魚が網の底でバタバタ動いているのを見たとき、大きな奴を送り与えたくれたことに対して川に心から感謝した)

- 99) My mind did a **flip-flop** into the Japanese mode.

—Michael L. Sherard, 米 (*Tacit Assumptions*)  
(私の考えは、日本式モードに**ばたばたと180度**転換した「見方が完全に変わった」)

- 100) He got to slinking down the by-streets and hiding in dark doorways where he heard he regulation **flop-flop** approaching. —Jerome K. Jerome, 英 (*Three Men in a Boat*)

(彼は裏町づたいこそそ逃げ、あの**ばたばた**という音が近づいてくる音の聞こえる暗い戸口に身を隠すようになった)

- 101) Young men and boys who appeared to be surfers or wind-surfers were in sawn-off jeans and those rubber zori they call “zorries” or “**flip-flops**.”

—James Kirkup, 米 (*U.S.A. —My Way—*)  
(サーファまたはウインドサーファのように見える若者(男性)と男の子たちは、膝丈のジーンズを着用し彼らが、**ばたばた**鳴るもの「サンダル」と呼ぶゴム草履を履いていた )

**3.43 flutter = 鳥の羽ばたき似た動作をいい、旗がひるがえる、人をうろたえさせる、あわてさせる、うろろさせる**

- 102) I also noticed a dry *keyaki* leaf **fluttering** down on the road in front of me.

—Peter Milward, 英 (*A Country Diary in Tokyo*)  
(また乾いたケヤキの葉が私の前の道路にひらひら落ちているのに気が付いた)

**3.44 gargle = うがい(の音)**

※ 古フランス語 *gargouille* (=throat) から派生した *gargouiller* (to gargle) が初期近代英語に入った)

- 103) This refreshing aromatic, oriental beverage was successfully transformed into colourless and tasteless **garglingwater**. —George Mikes (*How To Be Alive*)



(さわやかで、香りの高い東洋風の飲みものがうまく無色で無味のウガイ水になった)

### 3.45 gibber = 早口でしゃべる、訳のわからないことをしゃべる

※ 擬音語として初期近代英語から。

- 104) Man now needs for his salvation only one thing: to open his heart to joy, and leave fear to gibber through the glimmering darkness of a forgotten past.

——Bertrand Russell, 英 (*Living in an Atomic Age*)

(人間は自分の身を守るために必要なことは一つしかない。それは心を開いて喜びにし、恐怖を忘れられた過去のぼんやりした暗黒の中で早口でしゃべらさせることである。)

### 3.46 gibberish = わけのわからないおししゃべり

- 105) There are aphasia patients who produce onsssss4ly gibberish.

——Sally P. Springer, 米 (*Left Brain, Right Brain*)

(わけのわからないおししゃべりしかしない失語症の患者がいる)

- 106) “It’s you with a thousand feet and headful dream right foot century-half catch you” —which is compete gibberish.

——James Kirkup, 英 (*New Japan Now*)

(著者が日本人の買い物袋の上に書かれている英語の文句とかスローガンは大抵は意味をなさない白雉がかったものばかりであること嘆いている一節 「“It’s you with a thousand feet and headful dream right foot century-half catch you” これはまったくチンプンカンプンだ」)

- 107) I let a half hour go by, during which I feigned interest in the gibberish, and then I walked boldly over to the sugar bowl and stuck my hand in.

——Max Shulman, 米 (*The Unlucky Winner*)

(訳のわからないおししゃべりに興味があるふりをして 30 分ほど過ごし、それから大胆に砂糖のはいった容器のほうに歩いて行って手を突っ込んだ。)

- 108) I have no regard for modern writing. It all seems like gibberish to me —all that clipped prose, that breakneck pacing, that lean objectivity.

——*Ibid.*

(現代の文書には何の関心もない。僕にはすべて訳のわからないちんぷんかんぷんで、あの切り取りの散文、あの危険きわまるスピード、あの貧弱な客観性。)

- 109) He had a feeling of good-natured contempt for the gibbering dead.

——William S. Maugham, 英 (*The Alien Corn*)

(彼は何のことかわからないことを早口に語りかける死者にたいして人の悪いというわけではなく軽蔑感を持っていた)

### 3.47 giggle = 既出 3.17 で神経質そうに、恥ずかしそうにくすくす笑う、キャツキャツと笑う

※ 擬音語として初期近代英語から。

- 110) I wish my students would giggle a bit less, and be a bit less quiet in class.

—Joyce McDonnell, 英 (*The Japanese People*)

(教え子たちが授業中にもうちよつとくすくす笑ったりせず、静かにしてくれたらなあと思う。)

- 111) Girls and small children seem to **giggle** a great deal. Last week as I was walking back from the post office I heard many **giggles** and finally the “gaijin”.

—Trunette Olsen, 米 (*Linda's Adventure*)

(女の子と子供たちは大声をたててくすくす笑いをする。先週郵便局からの帰るとき大勢キヤッキヤツという笑い声。)

- 112) The worst way to open a conversation is with a nervous **giggle**.

—John Newman, 英 (*Talking to Japan*)

(会話を始めるときの一番悪いしぐさは神経質なクスクス笑いをすることである。)

- 113) Just then I heard Mrs Weatherbee **giggle**...Mrs Weatherbee kept it up, **giggling** as if she were out of her head...

—Erskin Caldwell, 米 (*My Old Man and the Grass Widow*)

(ちょうどそのときウエザビー夫人がクスクスル笑いをするのを聞いた。ウエザビー夫人は気が食ったように続けた。)

- 114) You then suddenly begin to **giggle** behind your hand...

—Caroline Dale, 英 (*My Culture Shock*)

(それからあなたは突然口元に手を当ててクスクス笑い始めた。)

### 3.48 glibly = ぺらぺらと 軽薄に

- 115) Nowadays, people talk very **glibly** about “democracy” and “freedom”, as if they were things to be given to us on plates as presents.

—Peter Milwaard, 英 (*Things Wise and Otherwise*)

(今日、人々は民主主義と自由について、贈り物として皿に載せて与えられたもののようにはなはだぺらぺらと軽薄なことを言う。)

### 3.49 glitter = きらびやかさ、はなやかさ

- 116) The **glitter** of their words does not hide the simple truth: the American economy is in serious trouble.

—Joan McConnell, 米 (*Understanding the United States*)

(彼らのことばがはなやかであるからであるといつて単純な真実をかくすことはできない。アメリカの経済は深刻な状況に陥っている。)

### 3.50 goggle = 目をぎょろぎょろさせる、見張りをする(風・ちり・光線よけ)、大めがね/stare = じろじろ見る

- 117) His eyes may **goggle** before a cake-shop.

—Robert Lynd 英, *Sweets*

(菓子屋の前で彼は目をぎょろぎょろさせることがある)

- 118) The tailor stared and **goggled** and **gaped** to see so much smoke come out of such a little

bottle... as he goggled and stared, the smoke began to gather together, thicker and thicker.

——Howard Pyle 米, *Woman's Wit*

(服やはそれほど多量なケムリガそのような小さなビンから出てくるのみで、目を見張り、目玉をぎよろつかせてばかりと口を開いた)

119) A pair of underwater goggles lay on the deck of the dinghy, near the stern seat.

——Jerome David 米, *Down at the Dinghy*

(水中眼鏡が船尾の近くのボートの甲板に置かれてあった)

### 3.51 gogle, gogle, go = 赤ん坊の片言

120) A biographer has noted that after making the remarkable discovery, Marie Curie went home and made fruit jelly, recorded her baby's weight in a diary, and wrote that she was cutting her milk teeth and could say, "Gogle, gogle, go."

(伝記作家は次のように書いている。マリー・キュリーはすばらしい発見をしてから帰宅し、フルーツゼリーを作り日記に赤ん坊の体重と歯が生えてきて「ゴーグリ、ゴーグリ、ゴー」と今日言った、と記したのだと。)

### 3.52 goo-zum, goo-gum, goo-o-o-o-o = 赤ん坊の鼻歌

121) When a baby is perfectly healthy and has had enough to eat and has slept all it wanted, then it hums a little tune to show how happy it is. To grown-ups this humming means nothing. It sounds like "goo-zum, goo-gum, goo-o-o-o-o." but to the baby it is perfect music. It is his first contribution to art.

——*The New Practical English Readers*

(赤ん坊がまったく健康で食べ物が十分で、望みだけの睡眠をとっていれば、いかほど満足かを表すのに短い鼻歌を歌う。大人にはこの鼻声は無意味なものだ。「グーザム、グーザム、グー」のように聞こえるが、赤ん坊にとっては音楽そのものなのである。それは芸術に貢献する初体験といえる)

### 3.53 groan = うめく(音)、ギイギイきしる(音) / creak = ギーギー[キーキー]きしる(音)

※ 中英語 creken から。より擬音語。

3.28 で creak and grown を挙げたが、ここでは groan and creak の実例を挙げる

122) To lift water to the higher fields they invented a simple device that as is in use to this day, It is called a shadoof...It groans and creaks as it carried on its steady ,necessary task of helping to provide food for the life of land.

——Grolier, *The Book of Know*

(いっそう高い畑に水を汲み上げるために彼らは今まで使われている簡易な仕掛けを発明した。それは土地の生活に食物を与える手助けをする着実で、必要な仕事をやってゆく度にギイギイ、ギシギシきしむ)

**3.54 growl = うなり声を立てる、吠えるように言う**

- 123) The two armed superpowers pointed their mighty nuclear missiles at each other, and **growled** ferocious threats. —Joan McConnell 米, *Understanding the United States*  
(2つの軍事大国が強力な核ミサイルをあいてに向けあって、凶暴に吠えるように脅迫した)

**3.55 gulp = がぶりと飲む、ぐいと飲む、ひと飲み**

※ 擬音語起源、中英語から。

- 124) Bond drank a cup of water down at one **gulp**. —Donald Sobol 米, *Two minute Mysteries*  
(ボンドはの水をカップ一杯ぐいっと一息で飲んだ)
- 125) The mother hastily **gulped** down the remainder of tea in her cup. —Liam O’Flaherty 愛蘭, *Going Into Exile*  
(母は茶碗の中のお茶の残りをあわてて一気に飲み込んだ)

**3.56 gurgle = 音を立てて流れる(音)**

※ 擬音語起源。中英語から。

- 126) Switzerland is famous for her clear waterfalls, her **gurgling** mountain streams and her beautiful lakes. —Joan McConnell 米, *Understanding Europe*  
(スイスは透明な滝、音を立てる溪流と美しい湖で有名である)

**3.57 gush = 液体や水が大量に噴出する、とくとくと喋る**

※ 擬音語からと考えられる。中英語から。

- 127) **Gushing**, she said to me: “What does it feel like to be famous?” It’s like having a string of pearls given. I suppose I’ve been asked the question twenty times. —William S. Maugham 英, *A writer’s Notebook*  
(彼女はとくとくと語った。「有名になるってどんな感じがするんですか?」「真珠ネックレスを貰ったような気分です。同じ質問はこれまで20回はされたと思いますが。」)

**3.58 harum-scarum = そそっかしい、無鉄砲な、いい加減な**

- 128) He always was a **harum-scarum** fellow. —William S. Maugham 英, *Home*  
(彼は本当にいつも無鉄砲な奴だった)
- 129) The notes which I planted in the apartment of my **harum-scarum** subordinate bore my finger-prints. —Bertrand Russell 英, *Satan in the Suburbs*  
(そそっかしい部下についてアパートに置いておいたメモに私の指紋が付いていた)

### 3.59 helter-skelter = でたらめの、行き当たりばったりの

※ 類似音の繰り返しの擬音語。初期近代英語から。

130) People adopt foreign terms in a completely **helter-skelter** manner.

——Herbert Passon 米, *Language and Cultural Pattern*.

(外国語の取り入れ方は全くでたらめである)

### 3.60 higgledy-piggledy = ひどく乱暴な、目茶苦茶な

※ 多分雑多な豚を一つの群れにすることを表す類似音の繰り返しによる。初期近代英語から。

131) ...here the tomb-stones really did stick up amid the unkempt turf in a **higgledy-piggledy** fashion.

——Peter Milward 英, *England in Sketches*

(ここでもじゃもじゃに生えた芝のなかに、実際 墓石がひどく乱暴な、目茶苦茶な形で突き出ていた)

### 3.61 hiss = シュート言う音

※ 擬音語。中英語から。

132) As we pulled across her stern a slim dart of fire shot out viciously at us, and suddenly she went down, head first, in a great **hiss** of steam.

——Joseph. Conrad 英, 作品不詳

(船尾を横切るとき細い火の矢が運悪く我々のとろに飛んできた。と、その時、船首を先に蒸気がシューともれる大きな音がして、船が沈んだ。)

133) It was not until the match **hissed** out that I realized what I had done.

——Alan J. Turney 英, *Japan: A World of Difference*

(マッチがシューと音を立ててはじめて自分がやったを実感した)

134) The snake **hissed** him down, and well he might.

——Hans Christian Andersen, *Fairy Tales*

(シュツシュツといて彼を黙らせたが、それは無理もなかった)

### 3.62 ho = (呼びかけや、注意、驚きなどを表す)ホー！、オーイ！

※ 擬音語。中英語から。

135) He laughed at Cupid and said, "**Ho!** What are such little arrows as these good for?"

——*Revised Short Stories*

(彼はキューピットを笑い。「ホウ こんな小さな矢はなんの役に立つか」と言った)

136) "**Ho! Ho!** Now I am coming to eat you up!"

——*Revised Short Readings*

(オーイ、いまお前を食べしまうために行こうと思っているのだ)

137) At these words the first giant laughed aloud. "**Ho, ho, ho!**" he cried, "Don't you know who that is? That is a neighbor of mine."

(「オイ、オイ、オイ あの人は誰なのか知らないのかい、俺の隣人だよ」と彼は叫んだ)

**3.63 howl = 犬、狼などが遠吠えする、風などがヒューヒュー・ゴォーとうなる**

※ 中英語から。

138) When the wind is howling its worst, there will come a sudden mysterious knocking at the door.

—*New English Readings (Revised) 2*

(風が最も激しく吹き荒れるとき、突然ドアを得体の知れない叩き方をするようになる)

**3.64 hubbub = わいわい、がやがやという音**

※ 多分ゲール語。ubub [=exclamation of content] が初期近代英語にはいった。

139) He heard a great hubbub in the street below. —Howard Pyle 米, *Woman's Wit*

(かれは下のほうの通りからがやがやという大きな音を聞いた)

**3.65 hurly burly = 騒動、ごった返し**

※ hurl の ing 形の繰り返しをもとに造語されたものと思われる。中英語から。

140) I have retired from the hurly-burly and ensconced myself not uncomfortably on the shelf.

—William S. Maugham 英, *A Writer's Notebook*

(うるさい世事から手を引き、気まずい思いもせず第一線から身を引いて身を隠した。)

**3.66 jabbering = ペチャペチャ喋る**

※ 擬音語として中英語から。

141) One of the main reasons why I resigned from my post at Nagoya University was that I could not bear the sound of the jabbering female broadcast at full volume from low-flying advertising planes. —James Kirkup 米, *New Japan Now*

(私が名古屋大学の職を辞した理由の一つは、低空飛行をする宣伝機からボリューム一杯に流れてくるべちゃべちゃ喋りまくる女性の声に耐えきれなくなったからである)

**3.67 jingle = ジヤラン・ジャランと鳴らす、チリン・チリン鳴る / jangle = ガチャガチャなる**

※ 擬音語として中英語から。

142) The man jingled some coins in his pocket. —John Dennis 米, *Stories behind English*

(その男はポケットのコインをジャラジャラ鳴らした)

143) She wore so many brooches and necklaces and earrings that she jingled and jangled just like a brass band. —Pamela L Travers 英, *Marry Poppines*

(彼女はブローチ、ネックレスとイヤリングを沢山つけていたので、ブラスバンドのようにリンリン・ジャンジャンと音を立てていた)

### 3.68 jittery = ビクビク状態

- 144) He is going, but he never gets **jittery** even in a pinch. —(NHK 続基礎英語, 1981)  
(彼は前進している、しかしピンチの時でも絶対にビクビクしない)

### 3.69 jitterbug = 神経質な人、びくびくした

※ jitter+bug による 20 世紀から。

- 145) How can you possibly spend your time with a **jitterbug** like that?  
——Max Shulman, 米 (*The Sugar Bowl*)  
(あんな神経質な女とどうしてよくも一緒に時間を過ごすことができるのかね。)

### 3.70 joggle = よたよた動く ゆれながら動く

※ jog の反復形。初期近代英語から。

- 146) As the old pony **joggled** along, the evening colors of street and sky danced before him, sleep came nearer nearer and nerer. —Hans Christian Andersen, デンマーク (*Fairy Tales*)  
(年老いた子馬がゆるゆる走るにつれ、街路と空の黄昏の色が彼の面前で踊るにつれ睡魔が一足一足近づいてきた)
- 147) Tom closed litters, carried by porters, came out o a side sown and went **jogging** sown the hill towards the baths —出典不詳  
(担ぎ人夫によって運ばれた垂れ幕を下ろした二つの担かごが通用口から出て、浴場の方へゆらゆらと丘を下りて行った)

### 3.71 jolt = がたがた揺れる

- 148) Suddenly, the train **jolted** over some points. To stop himself from falling, he put up his hand to grasp something. —Ken Method, 英 (*A Choice Reading a Day*)
- 149) Our men were sent to the sea, three miles distant, on **jolting** carts.  
——L. D. Peach, 英(*Florence Nightingale*)  
(部下 3 名はガタガタ揺れる車で 3 マイル離れた海辺に送られた)

### 3.72 jumble = ごちゃまぜ 寄せ集め

※ 擬音語として初期近代英語から。

- 150) They were usually filled with notions, spectacles, gilt jewelry and combs, just stored the in a **jumble**. —Irwin Shapiro, 米 (*The Golden Book of America*)

### 3.73 miaow = 猫の鳴き声、ニヤーンと鳴く

※ その他 miaou, meow とも言う。擬音語初期近代英語から。

- 151) “Miaow—Miawo,” said the cat in Bill’s arms “Miawo—Mieawo,” said the cat on the floor.  
——(Standard Jack and Betty 2)

(ビルの腕の中で猫はニャーン、ニャーと鳴いた。床の上でもニャーン、ニャーンと言った)

- 152) I miaowed to be let out into the garden; and Master slid the window open for me.  
——Ian Watson, 英 (Japan: A Cats’ Eye View)

(庭に出してくださいニャーンと言った、すると主人は窓を僕のために開けてくれた)

**3.74 moo = 牛の泣き声、牛のモーと鳴く / barbar = 羊の鳴き声、羊がメーイと鳴く / cluck = めんどりが雛を呼んだり卵をカカエテコッコと鳴く「声」 / oink = 豚の鳴き声、ぶうぶう、ぶうぶういう**

※ moo: 擬声語。初期近代英語から。

barbar: 古英語 cloccian から、擬音語。

cluck: 擬声語 20 世紀から。

- 153) English is a farmyard of sounds. Cows go “moo,” sheep go “barbar,” chicken go “cluck cluck,” and pigs go “oink oink.”  
——Chris Mosdell 英 (Cpycats)

(英語は音の農園だ。牛はモーと鳴き 羊はメーイと鳴き めんどりはコツコツと鳴き 豚はぶうぶうと鳴く。)

**3.75 munch = 音を立ててむしゃむしゃ食べる**

※ 擬音語と思われる中英語から。

- 154) You can do all of this...listening to your favorite music on your stereo and munching on a snack.  
——Peter Weld 英 (Facing the Future)

(君は次のことは何でもできる。ステレオで好きな音楽を聴きながらスナックをつまんでむしゃむしゃ食べることもね)

**3.76 Murmur = 小川のさらさら、ちょろちょろ流れる(音)**

※ ラテン語 murmur が古フランス語を経て中英語に入った。擬音語。

- 155) These nymphs were fair and beautiful, and they loved beautiful flowers and they loved beautiful flowers and murmuring brooks.  
——Greek Myths (Echo)

(精霊たちは金髪の美女ぞろいであった。美しい花とちょろちょろ流れる小川を愛した。)

**3.77 oops = しまった**

※ くだけた語。軽い失敗やまちがいをした時謝罪を表現するのに用いられ、おっと、しまったどうもなど。

- 156) Yasuo: Which direction is Greffith Park from the library, Jim?

Jim: It’s to the west, why?



Yasuo: **Oops!** I gave a stranger the wrong direction.

(やすお: ジムさん、図書館からグレイスに行くには度の方向に行けばよいのでしょうか)

ジム: 西の方向です。どうですか。

やすお:ああしまった! 見知らぬ人に、間違った方向を教えてしまった)

### 3.78 patter = バタバタと音を立て落ちる音(がする)、足音のバタバタという音、雨がしきりに流れる音

157) Opening it hurriedly, out there jumped five little dried orange pips, which **pattered** down upon this plate. —Conan Doyle 英 (*The Five Orange Pips*)

(急いで開くと小さな乾したオレンジの種が 5 個飛びだして、このプレイとの上にバタバタと音を立てて落ちた)

158) The rain still beat against the windows and **pattered** down from the low.

—O. Henry 米 (*The Last Leaf*)

(雨はまだ窓に叩きつけるように降っていたそして軒先からしきりに音を立てて流れていた)

159) She heard **a little pattering of feet**... In a little while, however, she again heard **a little pattering of footsteps** in the distance. —Lewis Carroll 英, *Alice's Adventures I Wonderland*

(彼女は小さなバタバタという足音を聞いた。しばらくして、しかし、また遠方に小さなバタバタと言う足音を聞いた。)

### 3.79 peep = ピーピー、チューチュー(ひな鳥・ネズミなどの鳴き声)

※ 擬音語。中英語から。

160) “Don’t you hear **a peep, peep, peep** in that apple tree over there?” said Jack.

—(*Standard Jack and Betty 2*)

(「向こうのあのりんごの木にひな鳥がピーピー鳴いているのが聞えないかい」とジャックが言った)

### 3.80 pell mell = めちゃくちゃに、向こうみずに、ごった返して / hr helter-skelter = 慌てふためいて、狼狽して / slap-dash = 向こうみずに、しゃにむに、むやみに

※ pell Mell: この語について Peter Millward は Things English で次のように言っている。

“It is spelled “PallMall”, but pronounced “Pell Mell”. In common English “pell mell” has the idea of running away in confusion”

hr helter-skelter: 類似音の繰り返しの擬音語。初期近代英語から。

slap-dash: 擬音語中英語から。

161) This was sufficient to fling the whole pack forward, **pell-mell**, crowded together, blocked.

—Jack London 英 (*The Call of the Wild*)

(これは狼のぜんぐんが飛び出してきて、ごった返して群がり、妨害されるには十分な機能を

果たした)

162) Away they run, pell-mell helter-skelter, slap-dash, tearing, yelling screaming and knocking down the corners.

——Charles Dickens (*The Story of Oliver Twist*)

(彼らは無二夢三雲を霞と大急ぎで、喚き、金切り声を上げ、角を曲がる時通行人にぶつかり倒して立ち去った)

## 4 tournament

Tournament の語源について、政村秀実編「英語語義イメージ辞典」(大修館)tour の項につきのように述べられています。

tour 旅行; 旅行する【源】回転盤(イメージ)(ぐるぐる回る)ーあちこち巡回する。turn(回る)  
/detour 迂回(それで回る)/tournament トーナメント(相手が順々に回ってくる)/contour  
等高線(同じ高さをぐるぐると巡る)/tourniquet 止血帯(胸や脚にぐるぐる巻く)

- OED (2)

- Originally. A martial sport or exercise of the middle ages, in which a number of combatants, mounted, and in armour, and divided into two parties, fought with blunted weapons and under restrictions, for the prize of valour; later, A meeting at an appointed time and place for knightly sports and exercises.
- A modern imitation of the mediaeval pastime.
- Applied to the Olympic and other ancient games or contest.
- figurative : An encounter or trial of strength
- transferred sense: A contest in any game of skill in which a number of competitors play a series of selective games. e.g. chess or lawn tennis tournament

- 大辞林

- もと、中世ヨーロッパにおける騎士の馬上試合の競技法の意一試合ごとに敗者を除き、勝者同士を戦わせ、最後に勝ち残った一人または一チームを優勝とする競技方法。

- 大辞泉

- 1 試合・競技で、敗者を除いていき、勝者どうしが戦い抜いて優勝を決める試合方式。勝ち残り式試合方法。勝ち抜き試合。  
2 中世ヨーロッパ騎士の馬上試合。二組に分かれた騎士が甲冑をつけて馬に乗り、勝ち抜き式で行われた

- 広辞苑

- = 中世ヨーロッパで行われた騎士の馬上試合。多くは、二組に分れた勝ち抜き式のもの。
- = 競技で、回を重ねるごとに敗者を除外し、最後に残った二者で優勝を決する方式。勝ち抜き

英米の辞典にあたって調べてみました。

- Collins Concise English Dictionary (3), 1992

- A sporting competition in which a contestant plays a series of games to determine an overall winner.
- BBC English Dictionary, 1992
  - A tournament is a sports competition in which the winners of each match play further matches, until just one person or team is left.
- Harrap's Essential English Dictionary, 1995
  - A tournament is a competition in which only players who win matches can progress to the next round of the competition.
- Cambridge International Dictionary of English, 1995
  - A competition in which there are several parts, which happen one after the other, until all the parts have been completed, and one winner is left.
- New Oxford Dictionary of English, 1999
  - 1) a series of contests between a number of competitors, competing for an overall prize.
  - 2) (in the Middle Ages) a sporting event in which two knights (or two groups of knights) jousted on horseback with blunted weapons, each trying to knock the other off, the winner receiving a prize.

はこの語の中期のことを述べています。
- Oxford Advanced Learner's Dictionary of English, 2000
  - A sport competition involving a number of teams or players who take part in different games and must leave the competition if they lose. The competition continues until there is only the winner left.
- American Heritage Dictionary, 2000
  - A series of contests in which a number of contestants compete and the one that prevails through the final round or that finishes with the best record is declared the winner.
- Macmillan English Dictionary, 2002
  - A series of games in which the winner of each game plays in the next game until there is one player or team left.
- Collins Cobuild Dictionary, 2006
  - A tournament is a sports competition in which players who win a match continue to play further matches in the competition until just one person or team is left.

Oxford 系を除いてこの語の遍歴を述べたものはありません。外来語ですので国語辞典は歴史を知りたい日本人の心を斟酌しているように思われます。

## 5 「わが国」

小沢準作「英作文演習」p.31(南雲堂)に{山林を濫伐した頃は・・・景勝の地が一朝にして平凡の地と化することがめずらしくなかった} という一節があります。「わが国で」ですがかつて、たしか「英語青年」誌上で in our country か in this country かについて議論され in this country がベターという結論だったことが頭に残っています。our country は too arrogant(尊大)な響きやニューアンスがあるというのがその理由だったと思います。国を代表する首相、王室などの場合ならばともかく一般市民(citizens)ならば this country というのが妥当だという結論だったと記憶しています。

そこで この「わが国」をわが国の辞典はどう説明しているのか。英和および和英辞典にあたって調べてみました。大多数は、何の説明もなく our country / this country / Japan としています。

しかし「ランダムハウス英和大」(小学館)は《 わが国」は ‘our country’ ともいうが ‘this country’ のほうが普通》。「ジーニアス系英和」(大修館)は《 in this country は自国にいる人が自国のことを言う場合に用いる。 in our country は「わが母国(祖国)ではという感じを含む 》と述べています。

和英辞典では、「ジーニアス系」は英和辞典と同様な説明をしています。「ニューセンチュリー」(三省堂)、と「フェイスバリット」(東京書籍)は《自国にいるときは in this country が一般的》と説明しています。

渡辺登士編著「英語語法活用大事典」p.329,「英語語法事典」p.1419(大修館)は《 this country は客観的 our country は主観的響きがある》と述べています。

our country にしろ this country にしろこのようなニューアンスの違いは日本語の感覚ではあまりないように思います。例えば「この人は」と言う場合はその人に特別な焦点を当てて賞賛、非難するときに使うニューアンスがあるように思えます。「この国」の場合も良きにしろ悪きにしろこの国を過剰に意識して述べる響きがあるように思えます。英語の this country とは大ぶん異なるのではないのでしょうか。

## 6 homestay

私がかつてホームステイしたアメリカのニュージャージー州の知人に E-mail でたずねてみましたが、この語はあまり聞いたことがなく違和感があるとの返答をいただきました。

日本に来て 9 年になるという英会話サークル講師のアメリカ人に *Did you hear the word 'homestay' in the States before coming to Japan?* とたずねると「学生などの場合にあります」と、かるく受け流しただけでそれ以外になんの関心を示しませんでした。こんなによく使われているこの国に 9 年もいるのにあまり関心がない様子。驚くとともに、わが国の特殊現象を反省する一時を過ごしました。この講師はオレゴン州の出身です。

『ジーニアス英和』、『ジーニアス英和大』は *homestay* の項で、【この語は(英)ではもちろん(米)でも日本語の「ホームステイ」ほど一般的でない】と付言されています。また『プログレシブ英和』1992 (sv. *homestay*) に「米国カリフォルニアなどホームステイの盛んな地域ではよく用いる英語で、時に自動詞として用いる」とあります。

私の調べた英米系の辞典では下記のようになっています。

英国系 *OED*、*COD*、*OALD* をはじめ *LONGMAN*、*COBUILD*、*CAMBRIDGE*、*BBC*、*PENGUIN*、*HARAAP*、*NTC* その他は皆無。*Longman Advanced American Dictionary* と *Macmillan English Dictionary for Advanced Learners of American English* は双方ともアメリカ英語を記したる辞典でありながら、*homestay* の項がありません。

米国系では *Webster's New International (3)*、*Webster's New World*、*American College*、*American Heritage*、*Thorndike* などにはなく、ただ唯一 *Webster's Collegiate* に (sv. *homestay*) n.(1956): a period during which a visitor in a foreign country lives with a local family とあるだけです。

『現代用語の基礎知識』には、「ホーム・ステイ(home-stay) 旅行会社が考え出した新しい海外旅行スタイル。欧米の一般家庭に1週間から半年くらい滞在して、風俗習慣、語学を学ぼうというミニ留学。→和製英語説は誤り。本来は旅行業者用語。」とあり、中学の教科書や初級者用英語辞典にまで出ているこの語の彼我の違いを痛感します。

ところが、フランス系の *Larousse English Dictionary* (1997)、『最新ラルース英語辞典』(秀文インターナショナル)に *homestay* の項がり n. AUS. *homestay (accommodation) bed and breakfast accommodation in a private home* とあります。しかし、森本勉『オーストラリア英語』1994【大修館】にはありませんが。ともかく、オーストラリアでは使われていることがわかります。

## 7 (h)の発音について

現代のイギリスの発音の現状を述べているA. Hughes, P. Trudgillの**English Accents and Dialects (Edward Arnold, 1979)** {鳥居次好・渡辺時夫訳}が手元にありましたので見てみたら、h音について記述されている個所がいくつかありましたので関連個所を抜き出して紹介します。ご承知の事と思いますが、ご参考のためメールしました。1984年初版 初版です。イギリスの10地区で話者がマイクを意識しないように工夫して収録したものだとされています。これは研究社から出ていますが、録音テープも販売されているようです。

p. 10	エイチを欠落させる率(%)
中流階級の上	12
中流階級の下	28
労働階級の上	67
労働階級の中	89
労働階級の下	93

すべての人々が、生涯を通じて同じ社会的地位にとどまっているわけではない。社会階級的なはしごを登っていく人は、自分のアクセントをRPに近づけるように変えていく傾向があり、このことが社会階級とアクセントとの間に存在する関係を維持するのに一役買っている。

p. 49

RPと違って、イングランドにおける都市部のたいていの地域アクセントには/h/がない、/h/がある場合でも、その使い方は少なくとまちまちなのである。従って、そのような人々にとっては、art と hart、arm と harm それぞれ同じように発音される。しかしながら、ニューカースル(Newcastle)を含めたイングランド北東部の人々は、スコットランドやアイルランドのと同様に/h/を失わず保存している。

p. 57

- ロンドン(London)

/h/はほぼ確実に欠落している。欠落していない場合は、/h/が強音節に含まれている時と言えるだろう(happened, I. 26) I. 26).

p. 66

- ノリッジ(Norwich)

/h/はイーストアングリアの農村地域では、いまだに失われずに残っているが、ノリッジでは、ある程度失われている。このような事情から「録音資料の中では、強勢の置かれた語、例えば humorous や husband の場合には/h/は発音されるのが普通であるが、強勢のない語においては、時として失われる。ほんの瞬間をへだてて he が最初には/h/を伴って、次には/h/抜きで発

音されることに注意されたい。

p. 73

- ブリストル(Bristol)

/h/は、発音されたりされなかったりで、一定していない。例えば「録音資料」の 3 行目では、/h/は続けて 4 回発音されている(He'd had his fixed, he said)が、次の 4 行目では発音されず、had が[ad]となっている。

p. 80

- 南ウェールズ(ポンティプリッド)(South Wales (Pontypridd))

/h/は通常発音されないが、強勢のある音節では発音されることがある。(例) him, I. 24.

p. 85

- ウェストミッドランド(West Midlands)

/h/は発音されない。

p. 94

- ヨークシャー(ブラッドフォード)(Yorkshire (Bradford))

/h/は発音されないのが普通である。

p. 100

- リヴァプール(Liverpool)

/h/は通常、発音されないが、時により発音されることがある。((例) 1.39, him and her)

p. 100

- ニューカースル(タインサイド)(Newcastle (Tyneside))

/h/は発音されるのが普通である。

p. 120

- エジンバラ(Edinburgh)

/h/は発音される。

p. 131

- ベルファスト(Belfast)

/h/は発音される。



## 8 Britons

### 8.1 ジャーナリズムで使うとしたもの

- 『カレッジ・ライトハウス英和』 1995
  - 「主に新聞などの言い方」
- 『新グローバル英和 (2)』 2001
  - 「主に新聞の報道などで用いる」
- 『ジーニアス英和大』 2001
  - 「主に報道記事・新聞の見出しで用いられる」
- 『新英和中 (7)』 2003
  - 「現在では新聞の見だしなどにのみ」
- 安藤貞雄・山田政美『現代英米語用法事典 (1)』 1995
  - イギリス国民は集合的には *the British*、個人については特に新聞などでは *a Briton*, 〈米〉では *a Britisher* が用いられる。
- Oxford Advanced Learner's Dictionary (6), 2000
  - (\*The noun Briton is used mainly in newspapers\*: The survivors of the avalanche included 12 Britons. It also describes the early inhabitants of Britain: the ancient Britons.:)
- Michael Swan (Practical English Usage [2])[sb. 354], 1995
  - The word *Briton* is unusual except in newspaper headlines—for example *TWO BRITONS KILLED IN AIR CRASH*. *Brit* is sometimes used informally. (But most British people call themselves Scottish, Welsh, Irish or English.)

### 8.2 特にジャーナリズムに限定せず詩的古風さがあるとしたもの

- *OED* (2), 1999
  - Sb. 1. A native of Britain: a In History and Ethnology: One of the race who occupied the southern part of the island at the Roman invasion, the ‘ancient Britons’. b. A Welshman. c. Since the union of England and Scotland: A native of Great Britain, or of the British Empire; much used in the 18<sup>th</sup> c. now chiefly in poetic rhetorical or melodramatic use, and in phrases dating to the “Rule Britannia” periods, as ‘to work like a Briton’, ‘as tough as a Briton’, etc. North Briton: a Scotchman

「主に今は詩的美文またはメロドラマテ的な文に見受ける。‘Rule Britannia’ period に用いた句である」と説いています。井上義昌『英米故事伝説辞典』1976(富山房)に「スコットランドの詩人 James Thomson の詩 *Rule Britannia* の1節で *Britannia rules the waves*. [Waves (= sea)] を意味する」と解説されていますが、イギリスが世界の7つの海を支配し

た 18 世紀の時代を意味しているようです。ともかくやや古風な趣があることを示しています。

### 8.3 この語の特殊性に触れていない英米系辞典

#### [ イギリス系 ]

- *Macmillan English Dictionary, 2002 CD-ROM*
  - Britwon / Ad `brItn / Bd noun [count] MAINLY JOURNALISM  
someone from the U.K.. The usual way of talking about someone from the U.K. is to say that he or she is British.
- *Cambridge Advanced Learner's Dictionary (1), 2003*
  - a British person; see table of Geographical names: Six Britons are believed to have been involved in the accident.
- *Collins Cobuild English Dictionary (3), 2001*
  - A Briton is a British citizen or a person of British origin.
- *Cambridge International Dictionary of English, 1995*
  - A British person
- *Harrap's Essential English Dictionary, 1995*
  - 1 A Briton is a person from Great Britain  
2 (history) A Briton was a member of the people who lived in Britain before the Roman invasion.
- *The New Penguin English Dictionary, 2000*
  - 1 a native or inhabitant of Britain  
2 a member of any of the peoples inhabiting Britain before the Anglo-Saxon invasions,
- *Longman Dictionary of Cotemporary English (3), 1995*
  - n[C]formal someone from Britain: *the ancient Britons*
- *Longman Advance American Dictionary, 2000*
  - n. [C]formal someone from great Britain or the U.K.: *the ancient Britons.*
- *Longman Dictionary of the English Language, 1984*
  - 1 a member of any of the peoples inhabiting Britain before the Anglo-Saxon invasions  
2 a native, inhabitant, or subject of Britain
- *COD (10), 1999*
  - N 1 a native or inhabitant of Great Britain, or a person of British descent.  
2 one of the people of southern Britain before and during Roman times.  
——ORIGIN from OFr. *Breton*, from L *Britto*, *Britton-*, or its Celtic equivalent.
- *The New Oxford Dictionary of English, 1998*
  - N 1 a citizen, native, or inhabitant of Great Britain • a person of British descent.

2 one of the people of southern Britain before and during Roman times.

[ アメリカ系 ]

- *Webster's New World College Dictionary (4)*, 1999
  - 1 a member of an early Celtic people living in S Britain at the time of the Britain at the time the Roman invasion
  - 2 a person born or living in Great Britain, esp. in England
- *Merriam Webster's Collegiate Dictionary (10)*, 1995
  - 1: a member of one of the peoples inhabiting Britain prior to the Anglo-Saxon invasions
  - 2: a native or subject of Great Britain, esp. : ENGLISHMAN
- *Random House Webster's Unabridged Dictionary CD-ROM*, 1999
  - 1. a native or inhabitant of Great Britain, esp. of England.
  - 2. one of the Celtic people formerly occupying the southern part of the island of Britain.  
[1250–1300; < ML *Britōn-* (s. of *Britōn*); r. ME *Breton* < OF < LL *Brittōn* & *s* Britons]
- *The American Heritage Dictionary (4)*, 2000
  - n 1. A native or inhabitant of Great Britain.
  - 2. One of a Celtic people inhabiting ancient Britain at the time of the Roman invasion
  - 3. A member of a Brittonic-speaking people.  
[Middle English *Britoun*, Celt, Briton from Anglo-Norman *Britun*, from Latin *Brittoes*, Britons, of Celtic origin.]
- *Webster's Third New International Dictionary*, 1963
  - 1: a member of one of the peoples inhabiting Britain previous to the Anglo-Saxon invasions, the majority being presumably Cymric Celts intermixed with earlier non-Indo-European-speaking peoples
  - 2: a native or subject of Great Britain; esp: ENGLISHMAN

[ 他の語法辞典 ]

『アメリカ人は使わない』

- B.Evan & C.Evan (*A Dictionary of American Usage*) p.72, 1957
  - \*A *Briton*\* can be either one of the ancient Celtic inhabitants of England or a modern inhabitant. *Britisher* was an American term that had a currency in the United States in the late eighteenth and nineteenth centuries but is practically never heard today. The ordinary American would never use the term \**Briton*\*. He accords the *Irish* separate recognition, but all other male inhabitants of the British Isles are *Englishmen* to him.  
普通のアメリカ人は *Briton* という語は絶対使わない。

『ブリトン人と呼ばれることを好む人はいない』

- S.Greenbaum & J. Whitcut (*Longman Guide to English Usage*) p.98, 1988

- The people of the United Kingdom are all British. They do not like to be called English unless they actually are so, though those who are English may find the word more emotionally appealing than British; the others should be referred to as Irish, Scottish, or Welsh, unless they are immigrants who have become UK citizens, for whom British is the only choice. Nobody likes to be called a \*Briton\*, though it saved space in headlines (12 Britons die in air crash), and is the correct way of referring to the Ancient \*Britons\*, *Britisher* is an American English expression. *Brit* is becoming increasingly popular on both sides of the Atlantic, but is informal and may be found rather offensive.

『文語体でならばイギリス人はブリトン人と言われても問題はない』

- (Collins Cobuild English Usage) p.108, 1992

- In writing, an individual British person can be referred to as a Briton. The youth, a 17-year-old Briton, was searched and arrested.

『アメリカ語法ではブリテッシャーは侮蔑の響きがありブリトンのほうがはるかによい』

- Bryan A. Garner (A Dictionary of Modern American Usage) pp.96-97, 1998

- The word \**Briton*\* — the word that Britons themselves recognize — is nearly 100 times more common than *Britisher*, an Americanism. For that reason, and because \**Britons*\* often consider *Britisher* a vague insult, \**Briton*\* should be preferred — e.g.: “It would not be a good idea to ask the famously crabby *Britisher* [read \**Briton*!] if this rush of Stateside success makes the prospect of working in Hollywood, with a decent-sized budget, attractive.” Rod Dreher, “The Secret’s Out,” *Sun-Sentinel* (Ft. Lauderdale), 13 Oct. 1996, at 1F

『古代のブリテン人を意味している特殊な語』

- Godfrey Howard (Good English Handbook) 田中駿平・中山理共訳『英語使いの英語用法百科辞典』 p.79, MACMILLAN LANGUGAGEHOUSE, 1998

- *Briton* は古代のブリテン人(古代ローマ人に征服される前にブリテン南部に住んでいた人々を指す歴史的な用語)あるいは *Rule Britannia!*(統治せよ、ブリタニアよ)を歌う場合を除いて使用されることがほとんどない。TWO BRITONS WIN GOLD MEDALS (英国人2人が金メダル獲得)

[ 文法書 ]

- R.Quirk et al (A Comprehensive Grammar of The English Language) p.286, 5.57 Note [f], 1985

- *Britisher* and *Brit* are colloquial variants of *Briton*. The use of *Briton* is more restricted than *Englishman*, *Scot*, and *Welshman* with specific reference. Because of the homophony of *Briton* and *Britain*, a spoken sentence beginning eg: ‘*An old Briton...*’ is likely to be misunderstood.

語法書、文法書ともジャーナリズムの語であることを説いてはいません。

[ 私のコーパスの例 ]

- 1) Though the British are notoriously insular, most **\*Britons\*** now see themselves as part of Europe. —James Kirkup 英人 (*It's A Small World!*)
- 2) Foreign visitors to **Britain** might be surprised to hear that so many **\*Britons\*** are worried about money. —George Wallace 英人 (*The British Today*)
- 3) Religious people believe that Sunday is a day for prayer. Other people believe it is a day of rest. They are angry at the change in the law. But for most **\*Britons\*** the change has been a good thing. Now they can spend their Saturday relaxing. —*Ibid.*
- 4) As for **Britain**, it was at first reluctant to join the EEC because **\*Britons\*** felt that EEC membership would weaken their strong trade links with former colonies. —Douglas Lamont 英人 (*Understanding the EU*)
- 5) Just as bhangra combines the musical traditions of East and West, so there has been a fashion mix between East and West for many young Asian **\*Britons\***. —Joan Randle 英人 (*Styled in Britain*)  
bhangra {「バンガラ」はインドパンジャブ州の伝統音楽にポップスの要素を結びつけたアジアのポピュラ音楽}
- 6) Now about 25 million **\*Britons\*** are made up of people who are not white, who belong to Britain's ethnic communities. Sometimes the members of Britain's ethnic communities are called **\*“new Britons”\***, but this description is less and less true, as over 40 per cent of the members of the ethnic communities were born in Britain, and the percentage is growing. —*Ibid.* (*This is Britain*)
- 7) It has been popular since the 1960s to take holidays overseas in a hot country. Because it was so cheap, the **\*the British\*** went to Spain, and Spain is still the number one destination for the **\*Brits\***. But as Spain has got more expensive and as other places have become more affordable, Spain's popularity has been slipping. Now, for example, the fastest growing holiday market for **\*Britons\*** is Florida, which is now the number two destination for them. —John H. Randle 英人 (*A New Look at Britain*)

コーパスにあるのはいずれも英人のものです。

ついでに英人を意味する他の語についてコーパスを見ってみました

- 8) The thought of returning to life in Thatcher's Britain fills these Eurobrites (as I call them) with horror. The same can be said of all the other **\*Britains\*** who have settled permanently in many parts of Europe. —James Kirkup 英人 (*It's A Small World!*)
- 9) The English have experienced wave after wave of foreign invasion. Or rather I should say **\*the British\*** were invaded by the Romans, and then by the English. —Peter Milard 英人 (*Culture in Contrast [England and Japan]*)

10) “I just hate doing business with the **\*Brits\***.” confessed a business woman from New York.

——Charles Dickens 英人 (*A Christmas Carol*)

11) These days people rarely describe themselves as **\*British\***. They are English or Welsh, Scottish or Irish. Maybe they are Greek or Pakistan or Afro- Caribbean in origin. Perhaps they describe themselves in very local terms.

——*Ibid.*

## 9 op-ed とは何か

いまD. Halberstamの*The Next Century*(北星堂)を読んでいます、そのp. 63に次の一節があります。

- 1) Our major columnists reflect our domestic bias in their training as well; they are conditioned by the nature of **\*\*op-ed page\*\*** rules, one on the left, one on the right, a reflection of our norms and our divisions, rather than the norms and the divisions of the real world.

(著名コラムニストも、アメリカ固有の価値観の中で育てられてきた。保守カリベラルか、右か左かという線で旗幟を鮮明にしないと、なかなかコラム欄に登場しない。だがこれはアメリカ的な割り切り方であって、現実の世界はそのように仕切られているわけではない。)

ここに登場しているop-edについてOEDは下記のように説明しています。Webster International (3) (1963)、OED (1)旧版、研究社『新英和大辞典』(1-4) (1927-80)、『岩波英和大辞典』(1970)にも見当たりません。Webster's Collegiate (9-10)には1970に登場したことを紹介しています。新版OEDの記述と符号しています。

- OED (1)[ supplement] (1982), OED (2) (1991)の説明
  - U.S. [abbrev. opposite editorial] in full Op-Ed page. A page of a newspaper, opposite the editorial page, developed to personal comment, feature article, etc.
  - 19970 Time 10 Aug. 32 The Op-Ed page —so named because it runs opposite a newspaper's editorial page —became a journalistic tradition with rise of the personal column. Pioneered by the Pulitzers in the old New York morning World. the Op-Ed provides a variety of viewpoints in dozens of major metropolitan dailies. 1970 Through the new page opposite the Editorial Page that we inaugurate today, we hope that a contribution may be made toward stimulating new thought and provoking new discussion on public problems. The two pages together —Editorial and Op-Ed —are designed to create an intellectual forum. 1974 Verbatim Dec. 6 / 1 The Op-Ed Page of The New York Times. 1977 G.V. Higgins Dreamland i. 8 If you don't get a regular fix of the stuff that goes on the front page, you're not going to have anything to be insightful about on the OP-Ed page.
- The Newbury House Dictionary of American English, 1996 (sv. Editorial) [USAGE NOTE]の説明
  - Most American newspapers have **\*\*editorial pages\*\*** where people can express their personal opinions and agree or disagree with items in the newspaper. There are usually three types of writing in the**\*\* editorial pages\*\***: **\*\* editorials\*\***, essays written by the

editors of the newspaper; **\*\*op-ed pieces\*\***, essays written by people who know about a topic; and **\*\*letters to the editor\*\***, letters from newspaper readers.



## 10 男性と beautiful : 女性と handsome

### 10.1 男性と beautiful

男性に beautiful を用いることについて最近内外の英和辞典に下記のごとく説く辞典が現れました。

- 『ランダムハウス英和大辞典』 1994
  - 「beautiful は形・色など完全さや、高尚な精神についていう。最近は特に女性の間の日常会話で男性についても。a beautiful hunk(性的魅力のある男性)、a beautiful bod(肉体美の男)のように用いる傾向にある」
- 『ウイズダム英和辞典』(1) 2003
  - 「beautiful は男女両方にたいして使用可能だが、実際の用法では男女比は 1:10 程度。男性に beautiful を使うのは女性同士の会話文中に多い」
- 『Macmillan English Dictionary』 2002
  - attractive used for describing men and women whose looks make other people sexually interested in them(魅力があり、人々に容貌が性的に関心を起こさせる男女のことを表すのに用いられる) とあります。

### 10.2 女性と handsome

#### [ 英和辞典の説明 ]

大概の辞典にこのことが説かれていますが、代表的辞典として下記の 2 種の説明を挙げます。

- 『新英和大辞典』(6 版)
  - 日本語の「ハンサム」は「美男子」の意味で男性にのみ用いるが英語の handsome は女性に対しても用いる。
- 『ランダムハウス英和大辞典』(2 版)
  - (beautiful の項) 女性の場合は目鼻立ちがきりっと堂々としていること、(特に女性が体格・態度で)威厳のある凛々しい「<男性的な>りりしい、きりっとした」顔の女性あるいは中年以後の女性の美しさには handsome を用いることがある。

#### [ 英米の辞典 ]

- (LDEE) 1
  - Of a woman attractive in dignified statuesque way, of a man having a pleasing appearance ; good-looking (品格のある優雅な姿の魅力的な女性について、感じのよい容姿をもつ女性について、容姿端麗の女性について)
- (LDCE) 2
  - (esp. of women) strong-looking; attractive with a firm, large appearance rather than a

delicate one (優美というよりもしっかりした大きな容貌をした強そうに見える魅力的な(とくに女性)について

- (LDCE) 3
    - a woman who is handsome is attractive in a strong, healthy way. A handsome woman is good-looking in a strong, healthy way (ハンサムな女性はたくましく、健康で魅力的である)
  - (CALD) 5
    - (of woman) having an attractive appearances ,with large strong features beautiful to look at. (大きなたくましい美しい容貌をしていて魅力的な{女性})
  - (OALD) 4
    - (of women) having a fine figure and a strong dignified appearance (立派な体格と威厳のある風貌の{女性})
  - Harrap's Essential English Dictionary, 1995
    - People describe a woman as handsome if she is good-looking in a strong and dignified, rather than feminine, way. (人々は女性を女性的というよりはたくましく威厳があり容姿端麗ならばハンサムと呼ぶ)
  - Collins Cobuild English Dictionary (3)
    - A handsome woman has an attractive appearance with features that are large and regular rather than small and delicate and that are considered to show strength of character. (ハンサムな女性は小さくひ弱というよりも大きな、均整の取れた、個性の強さを示していると思われる容姿が魅力的である)...an extremely handsome woman with a beautiful voice. (美しい声の大変ハンサムな女性)
  - R.W.Burchfield (New Fowler's Modern English Usage) (1), 1998
    - **Handsome.** Applied equally to men and women of striking appearance ('beautiful with dignity', Dr Johnson, 1755) since the 16c., but now, when applied to women, tending to be used only of such as are middle-aged or elderly. (ハンサム。16世紀から印象的な容姿の男女に使われる{1755年のジョンソン博士の威厳のある美的容姿}、しかし今は女性に用いるときは中年、または中年をこした人のみに用いられる)  
※ しかし私の収集コーパスには 10代の少女の例もあります。ですからこの説は原則的に捕らえていけばよいと思います。
- 1) Today good-looking...*Tomorrow they'll be talking about what a handsome woman she is*——  
T. Wolfe, 1987; *Mrs. Gorbachev is a stylish, handsome woman with an intense and intelligent manner*——*Time*, 1988; *Barbara Bush is what she is: 63, Sturdy. White-haired... Handsome. (That's the word that reporters, struggling for an adjective to describe a woman who dares not to be glamorous, have unanimously settled on.)* ——(*Chicago Tribune*, 1988)

[ 私の収集コーパスのもの ]

A) 男性と beautiful (13)

“men and women (1)”

- 2) All men and women will be beautiful only when the social arrangements give to every one of them an opportunity to live completely and harmoniously, when there is no environmental incentive and no hereditary tendency towards monomaniacal vice.

—A. L. Huxley (*The Beauty Industry*)

(心の美しい)

“readers (= men and women)” (1) (新聞紙上、人生相談の読者)

- 3) Since printing a sampling of the discouraging response, I have received a blizzard of mail from readers —easily 10,000 to 1—in favor of providing refuge to the boat people. And they’re still coming in. Thank you, readers. You are beautiful.

—Abigail Van Buren (*Dear Abby*) (心が美しくすばらしい)

“man” (1)

- 4) “It’s nice —make a man.” The artist erected a man in the front yard, that resembled a derrick. He could have stepped over the house; but the girl was not hypercritical; she was satisfied with the monster, and whispered: It’s a beautiful man—now make me coming along.

—Mark Twain (*Tom Meets Becky*) (立派な人)

“lord” (2)

- 5) As he passed through the gate of the city, the guards bowed down and made obeisance to him, saying, “How beautiful is our lord!” and a crowd of citizens followed him, and cried out, “Surely there is none so beautiful in the world.”

—Oscar Wilde (*The Star-Child*)

(守衛の言葉)

- 6) And the Star-Child answered then and said, “I am no king’s son, but the child of a poor beggar-woman. And how do you say that I am beautiful, for I know that I am evil to look at?” Then they held up a shield, and cried, “How does my lord say that he is not beautiful?”

—*Ibid.*

“young man” (4)

- 7) They visited distant countries and amazed the inhabitants, who thought that the beautiful young man on the back of the winged horse must have come down out of the sky.

—Nathaniel Hawthorne (*The Taming of the Winged Horse*)

- 8) “See how the ugly young man tries to make himself beautiful for the photograph!”

—John Hersey (*A Bell for Adams*)

(写真を立派に撮ってもらう)

- 9) It was not hard to believe that in youth he had been as beautiful as people said.

—William S. Maugham (*The Alien Corn*)

(若い男性)

- 10) He thought of passing his hands over his little perfect limbs, he knew he would be beautiful and he would make over to him all his dreams of a rich and varied life.

——*Ibid. (Of Human Bondage)*

“prince” (1)

- 11) High above the city, on a tall column, stood the statue of the Happy Prince. He was gilded all over with thin leaves of fine gold, for eyes he had two bright sapphire, and a large red ruby glowed on his sword-hilt. He was very much admired indeed. “He is beautiful as a weathercock,” remarked one of the Town Councillors who wished to gain a reputation for having artistic tastes.

——Oscar Wilde (*The Happy Prince*)

(Prince の像)

“boy” (3)

- 12) They were very poor, terribly poor —many a day they had nothing at all to eat. But the old man was very gentle and good to the boy, and the boy was a beautiful, innocent, truthful, tender-hearted creature.

——Louise de la Ramee (*A Dog of Flanders*)

(可愛い)

- 13) “Is it possible you have not heard,” said the friend, “your uncle—that good old man—is dead, and your cousin—that beautiful boy—was drowned at sea?”

——Robert L. Stevenson (*Silas Manner*)

(可愛い)

- 14) I’ve never forgotten those words, nor the beautiful college boy who spoke then. He died last year, after giving me four wonderful children and 49 of the happiest years of my life.

——Abigail Van Buren (*Dear Abby*)

(逝去した夫を偲ぶ妻の言葉)

## B) 女性と handsome (11)

“young men and women” (1)

- 15) They held another council and sent their handsomest young men and women to amuse her so that she would stoop crying.

——William Tyler. Olcott (*Myths of the Sun*)

“woman” (4)

- 16) One Sunday, when she was walking in the Champs Elysees in order to refresh herself a little after a hard week, she perceived a very pretty woman walking with a child. It was Madame Forestier, ever young, handsome and attractive.

——Guy de Maupassant (*The Diamond Necklace*)

(若い女性)

- 17) She had obviously been a very handsome woman in her time, but now she seemed to be one of those elderly women who suddenly begin to pay a heavy price for having played too many

tricks with their faces, so that she looked older and more ruinous, in her face if not in her figure, than other women of her own age who has never had the same time and money to squander on their appearance.

——John Boynton Priestley (*Bright Day*)

(若いころの女性)

- 18) It was in the early part of last spring—about five months ago—that I first began to go out at night, on account of a love-affair. One evening, when I was returning to the yashiki after a visit to my parents, I saw a woman standing by the riverside, not far from the main gateway. She was dressed like a person of high rank; and I thought it strange that a woman so finely dressed should be standing there alone at such an hour. But I did not think I had any right to question her, when she stepped forward and pulled me by the sleeve. Then I saw that she was very young and handsome.

——Lafcadio Hearn (*The Story of Chugoro*)

(若い女性)

- 19) Emma Woodhouse, handsome, clever, and rich, with a comfortable home happy disposition, seemed to unite some of the best blessings of existence; and had lived nearly twenty-one years in the world with very little to distress or vex her.

——J. Austen (*Emma*)

(若い女性)

“Lady” (2)

- 20) Did you ever see so handsome a lady as our mother’s friend? “asked the younger boy, holding his tall brother’s hand. “She looks like a queen.” Yet she is not so beautiful as our mother,” said the other boy. “She has a fine dress, it is true; but her face is not noble and kind. It is our mother who is like a queen.”

——James Baldwin (*Fifty Famous Stories*)

- 21) We don’t often get the chance of talking to a nice, handsome young lady like you.

——Pamela L. Travers (*Marry Poppins*)

(若い女性)

“girl” (4)

- 22) Minokichi soon felt charmed by this strange girl; and the more that he looked at her, the handsomer she appeared to be.

——Lafcadio Hearn (*Kwaidan*)

- 23) The self-conceited person takes it for granted that he is superior to others. The self-conceited girl thinks that she is handsomer, more graceful, or more talented than other girls, that her work is nicer or that her composition shows more genius.

——C. C. Everett (*Self-Reliance*)

- 24) Marie was well over her rheumatic fever and did not have to stay in bed any more. She was a tall, handsome, strong ten-year-old.

——Marie Killilea (*Karen*)

(10歳の少女)

- 25) A little to their right is a handsome Japanese girl, very smartly dressed, wearing a jaunty beret. She is tall, slim, long-legged, very unlike the stereotype of the traditional Japanese woman.

——Herbert Passin (*Language and Cultural Pattern*)

(スマートな着飾り、いきなベレー帽、背が高く、スリムで伝統的な日本女性とは全く異質な)

これと同じ分類でのものを google で調べると下記の結果になりました。

Beautiful men and women	約 5,750,000	beautiful readers	約 1,870,000
beautiful man	約 8,690,000	beautiful lord	約 3,710,000
beautiful young man	約 5,040,000	beautiful prince	約 2,370,000
beautiful boy	約 5,090,000		
handsome men and women	約 630,000	handsome women	約 567,000
handsome lady	約 408,000	handsome girl	約 591,000

これを見ると beautiful～が handsome～よりもはるかに多い。beautiful～は man が最も多く men and women, boy, young man, lord, prince, readers の順になります。handsome～は men and women, girl, women, lady の順です。

予想に反して各々が数多く使われて、また beautiful の頻度が handsome よりも桁違いに大きい。これは両語の絶対的頻度に関係があり、男女両性との関わり(コロケーション)を表したものではない結果のように思われます。

私の場合は beautiful ～13、handsome～11 で均衡しています。

## 11 G' an ill person, etc...

### 11.1 ill=形容詞の場合

#### A) ill が(病の)を意味するとき

- 1) When one actually pays a visit to someone in hospital or someone in sickbed, there are few handy stock English phrases. The most common is: “Get well soon”. Most communication is done by telephone. It is not a popular to actually pay a visit to **an ill person**.

——Mallory Fromm, 米 (*The Culture of Language*)

(病人)

- 2) It is felt that a mask prevents spreading the infection as well as giving protection to **the ill person**.

——Trunnette Olsen, 米(*Linda's Adventure*)

(病人)

- 3) The family unit transferred many of its functions to other institutions—education to the school, care of **the ill** to hospitals, and so on.

——Alvin Toffler, 米 (*Third Wave*)

《この **the ill** は **the** + 形容詞=複数の人々の意で病人・患者たち》

辞典類には「病人、患者」を意味するときは 4)、5)、6)、7)のように副詞が来ることを指摘しているものがあります。研究社の『新英和大辞典(6版)』には「【語法】(1)《米》では ill は形式ばった語で、通例は sick を用いる。(2) 限定的用法では、seriously [terminally] ~ people のように副詞が先行する場合のほか、an ~ child, the ~ woman のように単独でも用いられる。」とあります。1)、2)および 3)は私のコーパスに見当たりますが、いずれも米人のものです。

Michael Swan の『Practical English Usage (3)』(2005) (sb.266 ill and sick)に、1、2 版には記述のなかった I'm looking after **my sick mother**. (more normal than **my ill mother**.)があり、ill+人が病人・患者を意味することもあることを暗示しています。

- 4) Some **terminally-ill patients** would rather not wait for death...

——Peter Weld, 米 (*Facing the Future*)

(末期症状の患者)

- 5) Thousands of **terminally ill patients** ask for and receive euthanasia each year in the Netherlands.

——*International Herald Tribune*, July 23, 1999

- 6) There are **terminally ill patients** who ask doctors, friends or family members to put them out of their misery.

——John Millen (*Essential English for Medical Students*)

- 7) Britain's social service departments gives individual help to a wide range of people who need some support in their difficulties: disabled or elderly people, young families with social problems, **the mentally ill and young offenders**.

——Russell Barnes, 英 (*What's New in Britain*)

(精神病の患者)

- 8) **A seriously ill man** went to see his doctor.

——Ken Method, 英 (*A Choice Reading a Day*)

(重症患者)

**B) ill が形容詞として(悪い、邪悪など)などを意味するとき**

ill には形容詞として「病気の、気分が悪い」ほかに「下手な、まずい、不適切な、欠点の」などを意味し限定用法として後続の名詞の修飾語として使用されることもあります。

- 9) It is a very ill way to serve me by killing my relatives.

——R. L. Stevenson (*The Bottle Imp*)

(まったくひどいやり方)

- 10) The ill language that you are using I regard as coming not from you, but from the place on which you stand.

——Aesop's Fables (*The Kid and the Wolf*)

(ひどい言葉)

- 11) Today ill feelings still between the Greeks and the Turks on the lovely island republic of Cyprus.

——Joan McConnell, 米 (*Understanding Europe*)

(不信感)

**11.2 ill が名詞として「災難、不幸、病気」などを表わすとき**

- 12) Multiculturalism is their cure for America's ills.

——Joan McConnell, 米 (*Understanding the United States*)

(アメリカの苦難)

- 13) Time seems to cure most ills in Japan, and so I no longer push for a rational discussion of problems.

——Paul McLean, 米 (*Japan-Insight*)

(日本の災難)

- 14) Through past mistakes and present complacency, our economy inflicts many other ills on us: boring and degrading factory and office work; dangerous working conditions; inflexible working practices; personal lives subjugated to working too hard or to not being able to work at all.

——Jonathon E. Parritt, 英 (*Where on Earth Are We going?*)

(他の多くの災難)

- 15) People overcome their irrational fears and cure their self-induced ills by touching, stroking, holding, massaging and embracing one another

——James Kirkup, 英 (*U.S.A-My Way*)

(自分で引き起こした不幸災難)

- 16) We can't leave well alone, but we must needs change all to ills.

——Peter Milward, 英 (*Happenings and Non-Happenings*)

(不幸、災難)



17) People overcome their irrational fears and cure their self-induced ills by touching, stroking, holding, massaging and embracing one another. —J. Kirkup 英, (*U.S.A-My Way*)

(自分で引き起こした不幸・災難)

18) Science is the unknown magical medicine that will cure all our ill.

—Chris Mosdell, 英 (*Copycatt*)

(われわれすべての病気)

ところで7例中18)以外はすべてが複数形です。illの名詞形は普通は複数形になることを示しています。

## 12 「真善美・真美善」 ⇔ 「偽悪醜」 雑感

今使っている英作文テキストに「われわれが大学で学ぶのは、ただ職業を求めためだけではありません。真なるもの、善なるもの、美なるものを知る高い教養を身につけることが目的なのです」というのがあります。日本語の「真善美」は set phrase として成句となつて、研究社『新和大辞典(5版)』1998にも truth, good and beauty; 《形式》 the true, the good and the beautiful、[真善美の追求]を the pursuit of truth, goodness and beauty とあり、ほかの辞典でも類似の説明が記されています。しかしイギリスの作家 Somerset Maugham の *The Summing Up* に You tend to close your eyes to truth, beauty and goodness because they give no scope to your sense of the ridiculous. (きみは自分のおろかさについてを示唆してくれないと言って「真美善」に目を閉じがちになる) という一節があり、英語では語順が「真善美」とはならないケースがあることを示しています。参考のため国語辞典の【真善美】についての説明を調べてみました。

- 『日本国語大辞典』小学館 (2001)
  - 「認識上の真と、倫理上の善と、審美上の美。理想を実現した最高の状態をいう。この三つは、それぞれ論理学・倫理学・美学という独立の学の主題とであるとみられる場合もあり、価値論で、相互に関連し合った統一的な価値とみられる」
- 『大辞泉』小学館(1995)、『広辞苑』岩波書店 (1998)、『大辞泉』 (1995)
  - 「認識上の真と、倫理上の善と、審美上の美。人間の理想としての普遍妥当な価値をいう」ただし『広辞苑』は、これに「聖を加えることもある」と加筆
- 『大辞林』三省堂 (2006)
  - 「人間の理想である、真と善と美。それぞれ、学問・道徳・芸術の追求目標といえる、三つの大きな価値概念。
- 『広辞林』三省堂(1983)
  - 認識論上の真と倫理上の善と審美上の美。人類の求める最高の理想」とあります。

1928年発刊の金沢庄三郎編『広辞林』(ただし広辞はそれぞれ旧漢字になっています)三省堂、を見ましたら、【真善美】は、「認識上に於ける真と倫理上における善と審美上における美と、即ちあらゆる理想に適合させる状態。【偽悪醜】の対」とあり、(偽悪)は、「一 いつわりと悪、二 うわべを悪なる如く装うこと」。「偽悪醜」は、認識上の偽と倫理上の悪と審美上の醜と、即ちあらゆる理想に反対なる状態。「真善美」の対」とあります。

哲学者、評論家 三宅雪嶺先生にも『真善美日本人』『偽悪醜日本人』(1891)という名著があります。

調べた現行の辞典では「偽悪醜」という連語は見当たらず「偽悪」のみで「醜」がありません。「偽悪」は『広辞林』(1984)——「(偽善に対してつくられた語。わざと悪を装うこと)⇔「偽善」、広辞苑』(1998)——「(偽善の反対として造った語)うわべだけ悪人であるようにふるまうこと」、『日本

国語大辞典』(2001)——「偽善」に対応してできた語。わざと悪を装うこと」、その他『大辞泉』(1995)、『大辞林』(2006)などにも「(偽悪)の対語は(偽善)」とあるだけで、(偽悪醜)と言う三語の連語は見当たりません。「偽悪醜」は以前ほどの成熟度はなく 80 年間の時代変遷を表している印象を持ちます。このことは日本語、英語とも他の言語と同様一部流動性のあることを示しています。

## 13 国際結婚

米国コーネル大学で日本語と中国語を修め両語を自由に操る言語学者 Michael L. Sherard 氏は日本を理解する上に障害となっているエピソードを巧みに語り示唆している多くの教訓書書いていますが、氏の“Tacit Assumptions” (Macmillan LanguageHouse, 1988)に、We Don't Have an International Marriage という項で、What is an “international marriage” then? Well, since we don't normally use this term in English, I'm not sure exactly what it would mean if someone said it to me. But I could make a guess, if I had to

If, for example, the Crown Prince of Japan were to marry a woman from the British Royal Family, I suppose we might call that an international marriage.

It would have to have some international significance to be called “international.” To be international, it has to be on an international scale. And to be on an international scale, it has to be on “a national scale” in at least two nations. My wife and I are just small potatoes. We are not big enough fish to be called “international.”

I think that if the term “international” were to be used to describe a marriage at all, it would have to be modified by another word somehow. For example, I could imagine reading in a newspaper article something like the following.

“The union of the families from these two great nations represents a “truly international marriage.”

The use of this qualification “truly” shows the reader that “international” is not being used here with its normal meaning. と述べています。

以上のように国際的と international とは意味範囲が違います。To be international, it has to be on an international scale. And to be on an international scale, it has to be on “a national scale” in at least two nations というごとく international は当然 2 国間以上の規模の大きな範囲のことをいうのですが、日本語の「国際的」にはなにか抽象的なインパクトのないことばの独り歩きの感がします。一般的に漢字は英語と比較してこのような意味合いをもっていることが多くこのことによる現象かもしれません (small potatoes は[MED]に Am E informal someone or something that is not important or worth thinking about とあります)

教授は international waters, international shipping lanes, international air traffic は可、international city は不可とも言っています。そういえば、戦後とくに国際、国際人、国際化、国際都市という言葉を使うようになった傾向があります。やはり島国のせいかもしれません。また文化人、文化国家、文化センター、国際文化など 文化という言葉もよく使うようですね。

ついでに国際結婚は辞典にどのように記されているのかを調べてみました。「広辞苑」は{国籍を異にする男女が結婚すること}、「日本語大辞典」は{国籍が異なる男女が結婚すること。各国の結婚に関する制度が多様なため国際私法上の問題が生じる。International

marriage)と述べています。

和英辞典はほとんどがやはり international marriage としか記してはいません。例外的に 研究社「新和英中辞典」は3版(1983)などには a mixed marriage。その他「グランドコンサイス」「プログレッシブ」などは a international (mixed) marriage、「アンカー系」は intercultural (interracial) marriage しています。

国際結婚を意味する marriage の adj.は、Oxford Collocations Dictionary for students of English (1)(2002)(Oxford)は mixed、The BBI Combinatory Dictionary of English (1986)は interracial; mixed とありますが、international はありません。

Mixed marriage は[Collins Cobuild English Dictionary (3)]: a marriage between two people who are not the same race or religion [LDCE(3)], [MED]: a marriage between two people from different races or religions [Webster's New World College](4): marriage between persons of different religions or races [COD](10): a marriage between people of different races or religions とあります。

しかし時には intermarriage ということもあるようです。RANDOM HOUSE WEBSTER'S UNABRIDGED DICTIONARY (CD-ROM)に下記のように出ています。日本の国際結婚の英訳はこの語のほうが妥当なのかもしれません。

1. marriage between a man and woman of different races, religions, tribes, castes, or ethnic groups, as between a white and a black or between a Christian and a non-Christian.
2. marriage between a man and woman of different social classes.
3. marriage between a man and woman within a specific group, as required by custom or law; endogamy.
4. marriage between a man and woman belonging to the same small group, esp. if they are close blood relatives.

[1570–80; INTER- + MARRIAGE]

この語は大概の英和辞典にも載っています。

## 14 風流な！と？

### 14.1 疑問文と！

[ 普通の疑問文と！ ]

- 1) Is this perhaps symbolic of the British that no matter how modern they appear, there will always be tradition at the heart o things! —John Randle (*Style in Britain*)
- 2) But wasn't she the most beautiful creature then! —Willa Cather (*The Old Beauty*)
- 3) "Boy, is this embarrassing!" I said. —Michael. L. Sherard (*Tacit Assumption*)

[ 付加疑問文と！ ]

- 4) However, drinking seems more like an ordeal than a pleasant pastime, doesn't it!  
—Richard Goodman (*Watch What You Say*)
- 5) You can begin with phrases as simple as, "Nice day, isn't it!" or, "Beautiful day today, isn't it!"  
—*Ibid.*
- 6) "Oh, Charlie, you did come back, didn't you!" —Erskine Caldwell (*The Light*)

[ 疑問詞ではじまる疑問文と！ ]

- 7) What made you — why — when did you take it — what did you do it for, Mamie! —*Ibid.*
- 8) I saw a Japanese student wearing a sweatshirt with the slogan: "I am a Sweatshirt," How silly can you get!  
—James Kirkup (*New Japan Now*)
- 9) How often have I heard an American say something like...!  
—Jack Seward (*The Americans and the Japanese*)

### 14.2 省略された！

- 10) They didn't win the election ( no fault of the Lyricist, I'm sure!) but as Takako Doi loved to say in her election speeches: only by being "one" will we "make the mountains move".  
—Chris Mosdell (*Societies Storytellers*)
- 11) But of all the mysteries of the great Pyramid, it is the one offered by the Institute of Pyramidology (Yes, there is one!) in London that stirs my imagination.

### 14.3 ...—...—...—...—...!

- 12) She remembered having seen in her brother's Latin Grammar, "A mouse —of a mouse —to a mouse —a mouse —O mouse!" —Lewis Carrol (*Alice's Adventures in Wonderland*)

### 14.4 同一句、同一句、同一句！ 同一句！

- 13) He would give the bird a signal, and it would begin to shriek: "Get out, get out, GET OUT! You drunken no-goods, get out!" —Trevor Leggett (*Britain: Known and Unknown*)

#### 14.5 !!

- 14) Ask the same questions straight back and look at the annoyance on their faces!!  
——Caroline Dale (*My Culture Shock*)
- 15) A complaint to the waiter in Corfu could result in him shouting, “We are not slaves!!”  
——James House (*Get it! Use it!*)

#### 14.6 !!!

- 16) Loretta was Clay’s girl. They intended to get married at their earliest convenience. She wrote to him fairly regularly, from a paradise of \*\*\*triple exclamation point\*\*\* and inaccurate observations. All through the war, Clay had read all Loretta’s letters aloud to X, however intimate they were——in fact, the more intimate, the better.  
—— J. D. Salinger (*For Esme with Love and Squalor*)  
これは前線にいる クレイの恋人ロレタが彼に出す手紙のことである。日ごろ前線の将兵の行動などにやたらに!!!をつけて感嘆を表すことから、自分のいる銃後を paradise「(気楽な)天国」にたとえ、それも!!!で表そうとしたものであるた。!!!の表す特性をを象徴的に述べた1節である。
- 17) Start a new set now with every purchase over \$3!!! One has to be a rapid reader to take in all that when travelling at sixty miles and hour. ——James Kirkup (*America Now*)
- 18) The sound seems something like Burrarrrrrrrrrrrh!!! or Bahrrrrmph!! or Wuraowwwwwww!!  
——Ernest Allan Richter (*America at Play*)
- 19) At the next meal, great heaps of steaming rice were brought to their tables in silver soup tureens, together with pots of hot water. Relief, at last!!! ——Richard Goodman (*Watch What You Say*)
- 20) Men talking among themselves will sometimes use the humorous expression “cold as a brass toilet seat in Siberia.” That is very cold!!! ——*Ibid.*
- 21) “Am I glad to see you!!!” ——Crown (*New York Best Cartoons of the year, 1954*)

#### 14.7 !...!...!!

- 22) She ordered the priests to announce that Julius Caesar wasn’t a man at all. No! No! He was a God!!! He was the reincarnation of Ammon, the Sun God, and he had come back to earth in Caesar’s body to procreate a child for the Queen.  
——Carnegie (*Little Known Facts about Well Known People*)

#### 14.8 !...!...!!!

- 23) Say what you mean – SH and S. Now, why not think of some of your own? The use of one or two examples will not correct a mistake in pronunciation! It takes drill! drill! Drill!!!

—USIS (*Functional English and As I see the teaching of in Japan*)

**14.9 !...!!...!!!**

- 24) Up Kii-no-kuni-zaka he ran and ran; and all was black and empty before him. On and on he ran, never daring to look; and at last he saw a later.